

汪精衛研究文献目録

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 明治大学政治経済研究所 公開日: 2022-05-30 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 土屋, 光芳 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10291/22480

汪精衛研究文献目録

土 屋 光 芳

〔前言〕 筆者はこれまで汪精衛に関する研究書を3冊——『汪精衛と民主化の企て』（2000年）、『汪精衛と蔣汪合作政権』（2004年）、『「汪兆銘政権」論——比較コラボレーションによる考察』（2011年）——出版したが、退職を機に内外の各種資料館、各種大学図書館、新古書店などでこれまでに収集した汪精衛関係の書籍と論文を年代とテーマに分類して後進の研究者の参考のため文献目録として掲載することにした。主に大学院生時代は1982-83年台湾国立政治大学や当時の中国国民党党史会の陽明書屋と国史館、1986年アメリカ・カリフォルニア大学ロサンゼルス校図書館とスタンフォード大学のHoover InstitutesとEast Asian Collection、1987年に明治大学政治経済学部専任助手に就任以降は明治大学図書館と東洋文庫、1995年在外研究では北京の中国人民大学図書館と北京図書館などであった。ここ10年ほどは政治学プロパーの研究に専念していたので、汪精衛関係の文献フォローは不十分な点があろうかと思う。また事項別に論文を整理した関係で重複して引用した場合があるかもしれない。研究の必携書は、今日でも蔡徳金・王升編『汪精衛生平紀事』（中国文史出版社、1993年）である。最近、「汪精衛紀念託管会（Wang Jingwei Irrevocable Trust）」から出版された『汪精衛與現代中国系列叢書1～6』（時代文化、台北市、2019年）は今後の研究の方向性を暗示している。

目 次

I 汪精衛の著作

- 1 中文
- 2 日文
- 3 英文
- 4 参考文献

II 論文・講演・談話

- 1 『民報』（科学出版社影印、1957年）

- 2 『留歐雜誌』（半月刊），北京圖書館所藏
- 3 『建設』（月刊），人民出版社，1980年再版
- 4 『廣州民國日報』（東洋文庫所藏）
- 5 『留法勤工儉學運動（1）』（張允侯・殷叙彝・李峻晨編，上海人民出版社，1980年）
- 6 『最近新編—汪精衛先生演說集』（中國印書館，1925年11月）
- 7 『最近演講之二—汪精衛演講錄』（中國印書館，民16年2月再版）
- 8 『黃埔軍校史料（1924-1927）』（廣東革命歷史博物館編，廣東人民出版社，1982年初版，1994年）
- 9 『汪精衛先生最近演說集』（發行者，發行年不詳）
- 10 『汪精衛集』（恂如編，光明書局，1929年10月20日）
- 11 『汪精衛全集』（上海三民公司，1929年11月）
- 12 『汪精衛先生最近言論集（從民國18年歸國後到19年北上）』（南華日報，1931年10月）
- 13 『汪精衛先生最近言論集』，出版社，發行年不詳，1929-30年 ← 12の未収録論文
- 14 『汪精衛先生三年來之重要言論』（南京民主社，1931年12月，北京圖書館所藏）←12の未収録論文
- 15 『中央導報』（東洋文庫所藏）
- 16 『革命文獻』（中國國民黨中央委員會黨史史料編纂委員會，第36至38輯精裝合訂本，1978年）
- 17 『東方雜誌』
- 18 『中央黨務月刊』（明治大學圖書館所藏）
- 19 『天津大公報』1937年1月24日（抗戰史料000013，台灣國史館）
- 20 『中央週報』（陽明書屋所藏）
- 21 『國聞週報』
- 22 中央時事週報（東洋文庫所藏）
- 23 『抗日大勝利—台兒莊血戰史』（汪精衛，郭沫若，白崇禧，馮玉祥，杜仲遠等著，大時代出版社，1938年5月）
- 24 『國民參政會史料』，國民參政會史料編纂委員會編，國民參政會在臺歷屆參政員聯誼會，1962年
- 25 『國民參政會紀實1938-1948，武漢・重慶・南京』上卷，重慶市政協文史資料研究委員會・中共重慶市黨委党校編，重慶出版社，1985年
- 26 『政論旬刊』（陽明書屋所藏）
- 27 『汪精衛先生關於和平運動之重要言論』臨時政府行政委員會情報處，1939年8月

汪精衛研究文献目録

- 28 『政治月刊』（陽明書屋所蔵，東洋文庫一部所蔵）
 - 29 『汪精衛集団売国投敵批判資料選編』 南京大学馬列主義教研室《汪精衛問題研究班》編，南京大学學報編輯部，1981 年 5 月
 - 30 『国民政府還都週年紀念冊—和平反共建国文献』 国民政府宣伝部編集・出版，1941 年
 - 31 『中華民国重要史料初編—対日抗戦時期：第六編 傀儡組織（三）』 中華民国重要史料初編集委員会編，中国国民党中央委員会党史委員会，1981 年
 - 32 『中華民国重要史料初編—対日抗戦時期：第六編 傀儡組織（四）』，同上
 - 33 『東亜連盟月刊』（東洋文庫所蔵）
 - 34 『東亜連盟復刻版』 柏書房，1996 年
 - 35 『日華学報』 柏書房，1996 年
 - 36 『清郷日報』（マイクロフィルム，明治大学図書館）
 - 37 『清郷新報』（マイクロフィルム，明治大学図書館）
 - 38 *The People's Tribune* (edited by Tang Leang-li)
 - 39 『中華日報』（マイクロフィルム，明治大学図書館）
- III 書簡・電報
- 1 辛亥革命前後
 - 2 北伐期
 - 3 蔣汪合作政權
 - 4 汪精衛政權前後
- IV 伝記
- 1 書籍
 - ① 中文
 - ② 日文
 - 2 論文・エッセイ
 - ① 中文
 - ② 日文
 - ③ 英文
- V 辛亥革命
- 1 汪精衛と梁啓超の論争
 - 2 回想と史料
 - ① 国事共済会
 - ② 暗殺未遂事件
 - ③ 天津同盟会など
 - ④ 袁世凱との取引
 - ⑤ 兄（兆鏞）との関係

⑥ その他

3 研究

VI 国民革命期

1 史料

2 回想

3 研究

4 この時期の汪精衛の論文・講演など

VII 改組派

1 指導者

2 史料

3 回想

4 研究

VIII 蔣汪合作

1 全般

2 国共合作の時期

3 蔣汪合作政権

4 対日抗戦

IX 汪精衛暗殺未遂

X 抗戦前後

1 汪精衛の論文・講演

2 回想（同時代の批判）

3 重慶脱出の原因（研究）

4 高宗武・周仏海の役割

5 陶希聖との関係

XI 汪精衛政権

1 人名録，基本文献

2 各档案館史料，回想

3 領袖たち

4 党組織と内部対立

5 政府・軍・特工・経済

6 清郷工作

7 対日関係・外交

8 大亞洲主義，東亞連盟

9 漢奸裁判

XII 汪精衛の死因をめぐる

I 汪精衛の著作

1 中 文

『汪精衛先生最近講演集』 発行者不詳，1925 年 10 月，東洋文庫所蔵

『汪精衛先生演説集』 中国印書館，1925 年 11 月，東洋文庫所蔵

中国国民党陸軍軍幹政治部編『汪党代表講演集』 編社出版，発行年？（広東
省立中山図書館・広州市社会科学院・中山大学図書館編『黄埔軍校史料
滙編』第 11 冊，広東教育出版社，2012 年所収）

中央軍事政治学校編『汪精衛先生講演集』 中央軍事政治学校政治部，1926
年 10 月（同上所収）

『汪精衛先生演講録－最近演講之二』 中国印書館，1927 年 2 月再版，東洋文
庫所蔵

『汪精衛先生演説詞』 中央日報付設書報販売所，出版社発行年不詳，東洋文
庫所蔵

『帝国主義侵略中国的趨勢和変遷概論』 北平中国書局，1929 年，東洋文庫所
蔵

『汪精衛集』（恂如編全 4 卷）上海光明書局，1929 年 10 月，東洋文庫所蔵

第 1 卷 同盟会時代の論説

第 2 卷 人類共存主義，国際問題

第 3 卷 演説

第 4 卷 雑文，詩書簡

『汪精衛全集』全 4 卷，上海三民公司，1929 年 11 月

第 1 卷 初集 最近言論集

第 2 卷 二集 歴年詩文集（論著，序文，書簡，伝記，墓誌，報告，詩選，
詞鈔）

第3巻 三集 歴年講演集

第4巻 四集 国際研究集（民族主義，国際会議国際問題草案）

五集 中国国民党史料（中国国民党概論，補編）

『汪精衛先生最近言論集』出版社不詳，1929-30年

『汪精衛先生最近言論集（從民国18年帰国後到現在）』南華日報，香港，
1930年8月，東洋文庫所蔵

『汪精衛先生三年来之重要言論』南京民主社，1931年12月，北京図書館所
蔵

『汪精衛先生關於和平運動之重要言論』臨時政府行政委員会情報処，1938年
8月，東洋文庫所蔵

『汪主席和平建国言論集』（林柏生編輯者）中華日報，1939年，東洋文庫所
蔵

『汪精衛集团売国投敵批判資料選編』南京大学馬列主義教研室《汪精衛問題
研究班》南京大学学報編輯部，1981年5月

『汪精衛文集（外二種）』上下二巻，新声雜誌社編，古佚小説会，香港，2004
年（このうちに以下の『汪精衛全集』，『汪精衛先生最近演説集』，『汪精
衛先生最近言論集（増訂本第一冊）』三冊収録）

『汪精衛文集』全四冊，上海中山書店，発行年？

第一編 党義

第二編 党務

第三編 政治

第四編 国際問題

第五編 雑著

第六編 詩詞

『汪精衛先生最近演説集』出版社発行年不詳，1927年？

『汪精衛先生最近言論集（増訂本第一冊）』南華日報社，1931年10月10日

汪主席遺訓編纂委員會『汪精衛先生集—雙照樓詩詞藁』（同委員會，1945年5月4日）

張江裁編『汪精衛先生行實錄（外二種）』（古佚小說會，香港，2008年）所收

『汪精衛與現代中国系列叢書 1～6』（時代文化，台北市，2019年）

- 1 『汪精衛生平與理念—汪精衛自伝草稿及書信首刊』
- 2 『汪精衛詩詞新編—雙照樓詩詞藁讀後記・手稿・集外首刊』
- 3 『汪精衛南社詩話—汪精衛以「曼昭」署名之文学評論』
- 4 『汪精衛政治論述新編—文章・演講・書信・電報』
- 5 『獅口虎橋獄中写作—汪精衛相關人物・附汪精衛與龍榆生批註陶淵明詩集』
- 6 『何孟恒雲煙散憶—一回憶錄・汪精衛女婿回顧動盪時代』

2 日 文

川上純一訳『汪兆銘全集第1卷』東亜公論社，1939年

中山樵夫編訳『汪兆銘言論集』三省堂，1939年

日本青年外交協會訳編『中国の諸問題と其の解決』日本青年外交協會出版部，1939年

林柏生編輯『汪主席訪日言論集』上海特別市政府秘書處印行，1941年

外交問題研究会編『汪主席聲明集』日本國際協會，1941年

安藤徳器編訳『汪精衛自叙伝』大日本雄弁會講談社，1941年

3 英 文

Wang Ching-wei & Others, *The Chinese National Revolution: Essays and Documents*, China United Press, Peiping, 1931

Wang Ching-wei, *China Problems and Their Solution*, China United

Press, Shanghai, 1934

Wang Ching-wei, 'Four Revolutions and their Lessons, in *Chinese leaders and their Politics: Message to the Chinese People*, Supplement to *People's Tribune*, China United Press, Shanghai, 1935.

4 参考文献

夏曉臻「南京図書館所蔵汪精衛著述考察録」『民国档案』1998年第2期
(総第52期), 1998年5月

II 論文・講演・談話

1 『民報』(科学出版社影印, 1957年)

「民族の国民」, 第1号, 1905年11月26日, 12月8日再版, 1-30ページ

「民族の国民(其2)」, 第2号, 1905年11月26日初版, 1906年5月8日3
版, 1-23ページ

「希望満州立憲者盍聴諸」, 第3号, 1906年4月5日初版, 18日再版, 1-17
ページ

「駁新民叢報最近之非革命論」, 第4号, 1906年5月1日, 1-43ページ

「希望満州立憲者盍聴諸(続第3号)」, 第5号, 1906年6月26日初版, 30
日再版, 1-41ページ

「駁革命可以召瓜分説」, 第6号, 1906年7月25日, 17-39ページ

「駁新民叢報之政治革命論(続第6号)」, 第7号, 1906年9月5日, 33-62
ページ

「満州立憲与国民革命」, 第8号, 1906年10月8日, 33-54ページ

「駁革命可以内乱説」, 第9号, 1906年11月15日, 12月1日3版, 27-50
ページ

「付録：与佛公書」，同上，101-111 ページ

「雜駁新民叢報第 12 号」，第 10 号，1906 年 12 月 20 日，23 日再版，43-56
ページ

「時評：賀希望滿州立憲者之失望」，同上，57-64 ページ

「雜駁新民叢報（続）」，第 11 号，25-37 ページ

「雜駁新民叢報（続 11 号）」，第 12 号，1907 年 3 月 6 日，25-43 ページ

「排為滿州弁護者之無恥」，同上，155-185 ページ

「研究民族与政治關係之資料」，第 13 号，1907 年 5 月 5 日，17-37 ページ

「論革命之趨勢」，第 25 号（総編集人，汪精衛），1910 年 2 月 1 日，1-19 ペー
ジ

守約（汪精衛）「革命之決心」，同上

「載澧之私其觀」，同上，13-15 ページ

「張之洞死」，同上，16-19 ページ

「論革命之趨勢（承前）」，第 26 号，1910 年 2 月 1 日，1-20 ページ

民意（汪精衛）「革命之決心」，同上，1-8 ページ

2 『留欧雑誌』

「吾人對於国家之觀念」第 4 期，1916 年 10 月 1 日

「吾人對於国家之觀念（二）」第 5 期，10 月 15 日

「吾人對於中国之責任」第 8 期，1916 年 12 月 1 日

「吾人對於中国之責任（二）」第 9 期，12 月 15 日

3 『建設』（月刊），人民出版社，1980 年再版 ←『建設』は中華革命党の機関紙

「巴黎和会與中日問題」（第 1 卷第 6 号，1920 年 1 月）

「人類之共存（巴黎和議後之世界与中国篇緒論）」（第 1 卷第 6 号，1920 年 1
月）

「巴黎和議與中日問題（続）」（第2巻第1号，1920年2月）

4 『広州民国日報』（東洋文庫所蔵）

社論「介紹汪精衛先生語」（1919年11月17日）

「汪精衛演説和約與外交—未完」（1919年11月26日）

「汪精衛演説和約與外交—完」（1919年12月7日）

「汪精衛君之魯案意見」（1920年2月3日）

「汪精衛在大連青年会之講演」（1922年10月19日）

「汪精衛君講演記—題為『集權與分治』」（1923年5月5日）

「在松江演講—演題為民主政治途徑」（1923年8月9日）

「説自治」（国慶増刊1923年10月10日）

「汪精衛演講主義與問題」（1923年12月30日）

「国恥之意義」（1924年5月9日）

「怎樣纔能实行民生主義」（1924年5月21日）

「汪精衛講商業與政治」（1924年5月30日）

「政治與文化」（1924年6月9日）

5 『留法勤工儉学運動(1)』（張允侯・殷叙彝・李峻晨編，上海人民出版社，1980年）

「留学法国之近状，西南大学之計画」（《時事新報》1920年1月19日）

「汪精衛之劳工神經談」（『民国日報』1920年2月7日）

「述留法儉学」（《留法儉学報告書》1920年華法教育会広東分会刊印）

6 『最近新編—汪精衛先生演説集』（中国印書館，1925年11月）

「就広東教育会会長演説詞」（1921年）

「教育会对民国之責任演説詞」（1925年9月19日）

- 「怎樣纔能實行民生主義」(1924年5月21日)
- 「中国国民党何以有此次的宣言演說詞」(1924年)
- 「政治与群眾演說詞」(1924年8月18日)
- 「中国実業之救済方法演說詞」(1924年8月8日)
- 「中国革命之意義演說詞」(1925年9月6日)
- 「革命の分子応有之決心演說詞」(1925年9月9日)
- 「説明組織代表团赴京原因演說詞」(?)
- 「特別委員会宴会商界之演說詞」(1925年9月3日)
- 「廖仲愷先生の功業和遺思演說詞」(1925年9月1日)
- 「蒞軍政農工商大会演說詞」(1925年9月24日)
- 「蒞罷工委員会報告關於軍事計画演說詞」(1925年10月1日)
- 「蒞罷工委員会報告政治演說詞」(1925年10月1日)
- 「広東人民今日応有之決心演說詞」(1925年10月7日)
- 「蒞各界人民大会開会演說詞」(1925年10月25日)
- 「10月2日在陸軍軍官学校就党代表職演說詞」(1925年10月2日)
- 「国民政府慶祝双十節演說詞」(1925年10月10日)
- 「国民政府特別党部成立日演說詞」(1925年10月3日)
- 「蒞各界婦女聯歡大会開会演說詞」(1925年11月16日)

7 『最近演講之二—汪精衛演講錄』(中国印書館, 民国16年2月再版)

- 「民主政治の途經演說詞」(1923年8月4日)
- 「對於女界の感想演說詞」(1924年6月28日?)
- 「東征勝利即罷工勝利演說詞」(1925年12月12日)
- 「我們應該怎樣的努力演說詞」(1925年12月21日)
- 「廖仲愷百日記念之演說詞」(1925年11月30日)
- 「在第2次全国代表大会報告政治演說詞」(1926年1月1日)

- 「国民政府歡迎第2次全国代表大会宴会演說詞」(1926年1月1日)
「中国国民党第2次全国代表大会開幕典礼演說詞」(1926年1月1日)
「在全国代表大会介紹鮑羅庭顧問之演說詞」(1926年1月4日)
「国民政府歡迎僑港懇親团演說詞」(1925年12月26日)
「關於中央執行委员会人数之演說詞」(1925年12月9日)
「在代表大会報告按受總理遺囑經過之演說詞」(1926年1月4日)
「孫文主義学会举行成立典礼演說詞」(1925年11月29日)
「蒞青年聯会歡迎白崇禧代表演說詞」(1926年3月4日)
「蒞教育行政委员会演說詞」(?)
「蒞孫文主義学会會員大会中演說詞」(1926年2月28日)
「梧州举行中山記念堂奠基礼演說詞」(?)
「对梧州市民之演說詞」(1926年1月28日)
「出席第8次總理記念週及各級党部代表大会之演說詞」(?)
「怎樣的記念總理演說詞」(1926年3月22日)
「宣布孫總理事略演說詞」(?)
「孫總理逝世週記念日演說詞」(1926年3月12日)

8 『黄埔軍校史料(1924-1927)』(広東革命歴史博物館編, 広東人民出版社,
1982年初版, 1994年再版)

- 「建軍中央軍事政治学校緣由」(1926年3月1日)
「汪党代表訓令」
「重征東江訓戒」(蔣介石・汪兆銘)
「汪精衛在寧演說詞」(1927年9月16日《黃埔日刊》)

9 『汪精衛先生最近演說集』(発行者, 発行年不詳)

- 「武力与国民結合」(1927年7月1日)

- 「党与民衆運動」(7月6日)
- 「我們要建設怎樣的國家」(7月8日)
- 「主義与政策」(7月13日)
- 「夾攻中之奮鬥」(7月25日)
- 「敬告江西民衆」(7月31日)
- 「錯誤与糾正」(8月8日)
- 「懷廖仲愷同志」(8月20日)
- 「在南京第1次歡迎会上演說詞」
- 「在南京第1次歡迎会上演說辭」
- 「寧漢合作之考察」(9月22日)
- 「与南京代表团商榷回復中央党部之經過」(10月16日)
- 「在廣東省特別市党部歡迎会之演說」(11月1日)
- 「武漢分共之經過」(11月5日)
- 「分共以後」(11月11日)
- 「招待上海新聞記者茶会說詞」(11月25日)
- 「4月6日寄李石曾的一封信」(11月10日)
- 「第四次中央全体會議之提案」
- 「催促蔣介石繼續執行国民革命軍總司令職權之提案及個人引退之付帶聲明」
(1928年12月3日)
- 「予備會議閉会後之談話」(12月10日)
- 「關於廣州12月11日事變之宣告」(12月13日)
- 「個人引退之電報」(12月14日)
- 「覆駐法總支部函」(1928年1月20日)
- 「一個根本觀念」(7月22日)

10 『汪精衛集』（恂如編，光明書局，1929年10月20日）

第1巻：雑誌『民報』中収録論文

「民族的国民（一）」

「民族的国民（二）」

「論革命之趨勢」

「革命之決心」

「革命決不致召瓜分説」

「申論革命決不致召瓜分之災」

「革命可以杜絶瓜分之実拠」

「土耳其革命」

「波斯革命」

第2巻：雑誌『建設』収録論文のほか

「政治与群衆」（1925年2月）

「中国国民党史概論」

「国民会議国際問題草案」

第3巻：6と7に未収録

「全国国民会議促成会総会開幕日演説詞」（1925年3月1日）

「『平和』『奮闘』『救中国』」（3月19日）

「対第三期同業畢業訓話」（1926年1月17日）

「黄埔軍官学校成立典礼訓話」（3月1日）

第4巻の「雑著」：9に未収録

「声明」（1928年12月10日）

「兩件大事」12月14日

「建設」（1929年3月）

「本党総理孫先生逝世日感言」（3月13日）

「執信的人格」

「廖仲愷先生伝略」(1925 年 11 月 6 日)

「美国劳工状況題詞」

11 『汪精衛全集』(上海三民公司, 1929 年 11 月)

初集(最近言論集): 9 と 10 に未収録

「対新聞記者之談話」

「復張人傑書」(1927 年 4 月 5 日)

「致呉稚暉書」(11 月 28 日)

「離汙通電」

「覆駐法総支部函」(1928 年 4 月 7 日)

「致陳樹人書」(3 月 7 日)

「覆林柏書生書」(5 月 18 日)

「本党総理孫先生逝世四週年紀念日感言」

「關於大三党的問答」(1928 年 8 月 16 日)

「什麼是腐化」

二集: 歷年詩文集

論著: 『民報』から 7 本(革命論)

序文

書牘

伝記

墓誌

報告: 「中国国民党第 2 次全国代表大会政治報告」

詩選

詞鈔

三集(歷年講演集): 7 に未収録

「党员被敵人誘惑問題」

「兩廣統一之經過」(1926 年 2 月 1 日)

四集 (國際研究集)

民族主義：「民族的國民」

國民會議國際問題草案

巴黎會議後之世界與中國

五集 (中國國民黨史料)

「中國國民黨史概論」

補遺

序文：「美國勞工狀況敘言」

書牘：「為五三慘案致中央部電」

伝記：「朱執信先生伝略」

12 『汪精衛先生最近言論集 (從民國 18 年歸國後到 19 年北上)』(南華日報, 1931 年 10 月)

「汪精衛先生序」

「怎樣樹立民主勢力」(1929 年 11 月 3 日)

「怎樣實現民主政治」(11 月 20 日)

「關於黨治之談話」(12 月 1 日)

「18 年的總決算與 19 年的新局勢」(1930 年 1 月 1 日)

「黨治之意義」(1 月 1 日)

「關於廉潔政治之談話」(1 月 28 日)

「本黨總理孫先生逝世五週年紀念日感言」(3 月 12 日)

「欲行地方自治須自組織民衆始」(3 月 22 日)

「關於護黨之談話」(4 月 1 日)

「論約法」(4 月 3 日)

- 「知与行」(4月7日)
「20年来民権運動之回顧」(4月12日)
「關於党治軍之談話」(4月17日)
「兩種模型心理之瓦解」(4月19日)
「論思想統一」(4月26日)
「階級理論之応用」(5月7日)
「怎樣以党治軍」(5月17日)
「答問」(5月24日)
「不切事實」(5月31日)
「中央党部擴大会議之必要」(6月12日)
「付録一汪精衛先生致海內外各党部各同志東電」
「怎樣做文人」(6月17日)
「以人治軍」(7月2日)

13 『汪精衛先生最近言論集』 出版社・発行年不詳(1929-30年? 東洋文庫
所蔵) ← 12の未収録論文

- 「建設」
「新軍閥の崩潰比北洋軍閥更快」
「消滅軍閥的根本方治」

14 『汪精衛先生三年来之重要言論』(南京民主社, 1931年12月), 北京図
書館所蔵 ← 12の未収録論文

- 「約法の緊要問題」(1931年3月)
「約法与財政」(3月)
「以党治国与一党専制」(1931年3月20日)
「訓政与民権」(11月26日)

「以建設求統一以均權共治」

「付録一發起國民救國會議通電」(12 月 10 日)

15 『中央導報』(東洋文庫所藏)

「抗日倒蔣誓以死爭」(第 14 期, 1931 年 1 月)

**16 『革命文獻』(中國國民黨中央委員會黨史史料編纂委員會, 第 36 至 38 輯
精裝合訂本, 1978 年再版)**

「汪兆銘在中央政治會議報告宣傳報始末」, 第 36 輯「抗戰前有關日本侵華史料 (六)」1932 年 3 月 14 日

「行政院長汪兆銘在國難會議致開幕詞」, 同上, 4 月 7 日

「在洛舉行國難會議之意義」, 同上, 月日不詳

「行政院長汪兆銘在國難會議閉幕式中致詞」, 同上, 4 月 12 日

「行政院長汪兆銘在中央政治會議報告國連調查團來京談話經過」, 第 37 輯「日本侵華有關史料 (七)」1932 年 4 月 2 日

「行政院長汪兆銘對暴日侵略宣言」, 第 38 輯「日本侵華有關史料 (八)」1932 年 1 月 12 日

「行政院長汪兆銘在中央紀念週報告詞」, 同上, 3 月 20 日

「行政院長汪兆銘對時局談話」, 同上, 4 月 13 日

「老話」, 同上, 4 月 27 日

「行政院長汪兆銘在中央紀念週講辭」, 同上, 5 月 1 日

「行政院長汪兆銘為停戰交涉事書面談話」, 同上, 5 月 31 日

「行政院長汪兆銘為華北停戰事談話」, 同上, 6 月 1 日

「行政院長汪兆銘在中央政治會議第 32 次臨時會議對日本在塘沽訂立停戰協定之經過情形報告」, 同上, 6 月 3 日

「行政院長汪兆銘在中央紀念週解稟塘沽訂協定之報告」, 同上, 6 月 5 日

17 『東方雜誌』

「自述」(22.12.7)，第31卷第1号，1934年1月1日

「救亡圖存之方針」，第32卷第21号，1934年11月1日

18 『中央黨務月刊』(明治大學圖書館所藏)

「充實国力為救亡之根本便法—1933年6月5日在中央紀年週講」第59期，
1933年6月

「效法 總理奮鬥的革命精神—1934年5月5日在中央舉行革命政府成立第13
週年紀年週大會講」第70期，1934年5月

19 『天津大公報』1937年1月24日(抗戰史料000013, 國史館)

「汪精衛講民主政治」

20 『中央週報』(陽明書屋所藏)

「死中求生全靠自力(1937年1月18日)」第451期，選錄

「怎樣救亡圖存(1月22日)」，同上

21 『國聞週報』

「汪兆銘談外交方針」第10卷第35期

「大家要說老實話・大家要負責任」第14卷第32期，1937年8月16日

「我們的外交方針(10月9日上海大公報)」第14卷第41期

「尋求與國與團結民衆」第14卷第45期，11月22日

「怎樣纔能持久」(11月18日)第14卷第46期，11月29日

22 中央時事周報（東洋文庫所藏）

「近来的感想—汪主席在中央紀念週報告」第 6 卷第 2 期，1937 年，1 月 23 日

「汪主席演講『怎樣救亡圖存』」第 6 卷第 3 号，1 月 30 日

「汪委員在国府紀念週之報告」第 6 卷第 5 号，2 月 13 日

「汪主席勗自刀圖存」第 6 卷第 11 号，3 月 27 日

「汪主席在中央報告綏行印象」第 6 卷第 12 号，4 月 3 日

「汪主席闡述中央对日態度」第 6 卷第 18 号，5 月 15 日

「汪主席在中央紀念週对国大問題之解答」6 月 5 日

「汪主席發表之引論」7 月 16 日

「汪主席演講『最後關頭』」8 月 7 日

「汪主席演講大家要說老實話大家要負責任」8 月 14 日

23 『抗日大勝利—台兒莊血戰史』（汪精衛，郭沫若，白崇禧，馮玉祥，杜仲遠等著，大時代出版社，1938 年 5 月） ← 東洋文庫所藏

「台兒莊勝利之意義与今後国民努力之目標」（4 月 9 日）

24 『国民参政會史料』，国民参政會史料編纂委員會編，国民参政會在臺歷屆参政員聯誼會，1962 年

第一次大会「開会式汪議長兆銘致詞」（1938 年 7 月 6 日）

第一次大会「休会式汪議長兆銘致詞」（7 月 15 日）

第二次大会「開会式汪議長兆銘致詞」（10 月 28 日）

第二次大会「休会式汪議長兆銘致詞」（11 月 6 日）

25 『國民參政會紀實 1938-1948, 武漢・重慶・南京』上卷, 重慶市政協文史資料研究委員會・中共重慶市黨委黨校編, 重慶出版社, 1985 年

「精誠團結・共赴國難—各界對國民參政會的希望和要求」(議長汪兆銘發表談話—1938 年 6 月 17 日『中央日報』)

26 『政論旬刊』(陽明書屋所藏)

「在抗戰中建國」, 第 1 卷第 23 期, 1938 年 9 月 25 日

「摘錄 9 月 9 日講辭」, 同上

「再論民生主義的經濟制度—原題「抗戰建國的力量」」, 第 1 卷第 24 期, 10 月 25 日

「最近外交方針」, 第 1 卷第 28 期, 11 月 5 日

「犧牲的代償」, 第 1 卷第 30 期, 11 月 25 日

27 『汪精衛先生關於和平運動之重要言論』臨時政府行政委員會情報處, 1939 年 8 月

「答問」(1939 年 1 月 30 日)

28 『政治月刊』(陽明書屋所藏)

「調整國交一周年紀念」, 第 2 卷第 6 期, 1941 年 12 月 10 日

「發揚東方道義精神」, 第 3 卷第 3 期, 1942 年 3 月 10 日

29 『汪精衛集團賣國投敵批判資料選編』南京大學馬列主義教研室《汪精衛問題研究班》編, 南京大學學報編輯部, 1981 年 5 月

「國民政府還都 1 年」(1941 年 3 月 30 日)

「清鄉工作之意義」(1941 年 5 月 11 日), 同

「高級将校戰略講演實習開始訓詞」(1941年12月10日), 同上

「国民政府還都2周年記念辞」(1942年3月30日), 同上,

「確立必勝基礎」, 同上

30 『国民政府還都週年記念冊一和平反共建国文献』国民政府宣传部編集・出版, 1941年

「豔電(1938年12月29日)」

「致中央常務委员会国防最高會議(39年1月8日發表)」

「举一個例(39年3月27日)」

「我對於中日關係之根本觀念及前進目標(39年7月9日廣播)」

「敬告海外僑胞(39年7月10日廣播)」

「怎樣實現和平(39年8月9日)廣播」

「致海內外諸同志東電(39年9月1日)」

「致重慶諸同志篠電(39年9月17日)」

「9月21日声明(39年9月21日)」

「中国与東亜(39年10月1日)」

「中華民國之新生命(39年10月10日)」

「所望於產業界諸君(39年11月19日)」

「三民主義之理論与實際(39年11月23日)」

「豔電書後(39年12月29日)」

「共同前進(40年1月1日)」

「和平運動之前途(40年元旦)廣播」

「在青島會談各次談話(40年1月22至24日)」

「国民政府環都的重大使命(40年3月23日)」

「罪己的精神(40年4月26日)」

「民權主義前途之展望(40年8月27日)」

「調整国交交渉完畢後 汪院長對新聞記者談話（40年8月31日）」

「和平運動殉難同志追悼大会獻辭（40年9月1日）」

「民權（族の誤記）主義與大亞州主義（40年11月12日）」

「汪主席就職訓辭（40年11月29日）」

「簽訂中日調整国交條約的談話（40年11月30日）」

「新時代的使命（40年12月15日）」

「所望於中華民國30年者（41年元旦）」

「反共與民食（41年3月12日）」

31 『中華民國重要史料初編—對日抗戰時期：第六編 傀儡組織（三）』 中華民國重要史料初編集委員會編，中國國民党中央委員會黨史委員會，1981年

「汪兆銘對締結『中』日基本關係條約之解釋」（1941年11月30日）

「『國民政府汪主席』對大東亞戰爭之聲明」（12月8日）

「汪兆銘在東亞戰爭發生後對民眾講詞」（12月）

「汪兆銘之『大東亞戰爭之意義』」（1942年）

「汪兆銘之『中日同盟條約之分析』」（1943年10月30日）

「汪兆銘簽訂『中』日同盟條約與發表大東亞宣言の講詞」（1943年11月29日）

32 『中華民國重要史料初編—對日抗戰時期：第六編 傀儡組織（四）』，同上

「汪兆銘的『最後之心情』」（1944年10月）

33 『東亞連盟月刊』（東洋文庫所藏）

「民族主義與大亞洲主義」（1940年11月12日總理孫先生誕辰記念作），『東

亜連盟月刊』

「論建設東亜新秩序」創刊号，1940年11月20日

「新国民運動綱要」第2巻第1期，1942年1月30日

「日軍攻陥新加坡—2月18日広播」同上第2巻第2期，1942年2月20日

「新国民運動與精神総動員」同上

「記念国父誕辰」同上第2巻第11期，1942年20日

「怎樣救中国」同上

「怎樣同甘同苦」第2巻第12期，1942年12月20日

「敬告全国国民」第3巻第3期，1943年3月20日

「新国民運動綱要講授大意」第3巻第9期，1943年9月30日

「慶祝中日同盟」第3巻第10期，1943年10月31日

「汪主席發表声明」『東亜連盟月刊』12月号広州分会，1941年12月30日

34 『東亜連盟復刻版』 柏書房，1996年

「訓詞」中国語版第1巻特輯号第1巻昭和16年1月，第6巻

「中日国交調整與東亜連盟」，同上

「述東亜連盟運動始末」，昭和16年3月，第7巻

「大亞洲主義即東亜連盟」，同上

「日本国民に告ぐ」，昭和16年8月，第8巻

「中国と大東亜戦争」，昭和17年2月，第10巻

「新国民運動綱要」，昭和17年6月，第11巻

「東亜連盟四綱領の具現」，昭和18年8月，第15巻

35 『日華学報』 柏書房，1996年

「留日学生に対する汪主席訓示」85号，1941年9月15日

36 『清鄉日報』(マイクロフィルム, 明治大学図書館)

「在亜東記者大会席上汪主席懇切致訓」1941年8月6日

「不要自暴自棄」9月15-16日

「汪委員長巡視清鄉區訓詞彙編」12月7日

「掃除英米侵略勢力共謀東亜民族解放」12月20日

「12月10日對於戰略演習開始之訓辭」12月21, 23, 25日

37 『清鄉新報』(マイクロフィルム, 明治大学図書館)

「今天是七七五週年汪主席發表感想」1942年7月7日

「鴉片戰爭百日紀念日」8月30日

「復興東亜之路」9月18日

「巡視清鄉區歸來, 汪委員長發表感想」9月15日

「大東亜戦争1週年主席接見中外記者」12月7日

「汪主席再告全国国民怎樣同甘共苦」12月8日

38 *The People's Tribune* (edited by Tang Leang-li)

‘The People’s Right of Representation’, Vol. 1, No. 1, Sat. Dec. 19, 1931.

‘Political Parties in the Educative Period’, Vol. 1, No. 2, Sat. Dec. 26, 1931.

‘The Crisis in China’, Vol. 1, No. 2, Sat. Dec. 26, 1931.

‘Wang Ching-wei on the Situation’, Vol. 1, No. 3, May ?, 1931.

‘Democracy and The National Celebrities’, Vol. 1, No. 4, June/July ?, 1931.

‘In Defense of The National Heritage’, Vol. 2, Nov.1-3, Feb/March ?, 1932.

‘The Meaning of Armed Resistance’ (March 12, 1925), Vol. 2, No. 4, Mar. ?, 1932

‘In Memory of The Seventy-two Revolutionary Martyrs’, Vol. 2, No. 5,

April 9, 1932.

‘What Kind of Constitutional Government do We Need?’. Vol. 2, No. 7,
April 30, 1932.

‘On Local Self-Government and Democracy’, Vol. 2, No. 8, May 16, 1932.

‘Three Vital Issues’, Vol. 2, No. 12. July 15, 1932.

‘The Overthrow of Predatory Militarism’, Vol. 3, No. 5, Oct. 1, 1932.

‘The National Crisis’, Vol. 3, No. 6, Oct. 16, 1932.

‘A Call to Unity’, Vol. 3, Nov. 7, Nov. 1, 1932.

‘The Meaning of Party Government’, Vol. 4, No. 4, March, 16, 1933.

‘The Road to National Salvation’, Vol. 4, No. 5, April 1, 1933.

‘The Problem of National Revolutionary Defense’, Vol. 4, No. 7, May 1,
1933.

‘In Memory of the Seventy-two Revolutionary Martyrs’, Vol. 4. No. 6,
April 16, 1933.

‘Why we Resist’, Vol. 4. No. 8, May, 16, 1933.

‘The Issues of the Moment’, Vol. 4, No. 9, June 1, 1933.

‘On the Cessation of Armed Hostilities’, Vol. 4, No. 10, June 16, 1933.

‘The Problems of the Day and their Solution’, Vol. 4, No. 12, July 16, 1933.

‘Unification by Reconstruction’, Vol. 5, No. 1, Aug. 1, 1933.

‘Some Observations on The Present Situation’, Vol. 5, No. 2, Aug. 16,
1933.

‘On Foreign Policy’, Vol. 5, Nov. 4, Sep. 16, 1933.

‘Some Misconceptions about “Democracy”’, Vol. 7, Nov. 1, July 1, 1934.

‘Confucius and Modern Society’, Vol. 7, Nov. 6, Sep. 16, 1934.

‘China’s Unshaken Confidence in Democratic Ideals’, Vol. 16, No. 3, Feb.
1, 1937.

- ‘World-Trends and Their Lesson for China’, Vol. 16, No. 4, Feb. 16, 1937.
- ‘Facing Current National Issues’, Vol. 18, No. 3, Aug. 1, 1937.
- ‘Frankness and Responsibilities in Facing the Crisis’, Vol. 18, No. 4, Aug. 16, 1937.
- ‘The Lessons of Independence Day’, Vol. 19, No. 1/2, Oct. ?, 1937.
- ‘National Unity and International Co-Operation’, Vol. 19, No. 3/4, Nov. ?, 1937.
- ‘Guerilla Warfare on the Scorched Earth’, Vol. 21, No. 5/6, June ?, 1938.
- ‘The Tasks before the Nation’, Vol. 22, No. 1/2, July ?, 1938.
- ‘Review of Twelve Months of Resistance’, Vol. 22, No. 3/4, Aug. ?, 1938.
- ‘Local Autonomy and the Campaign of Resistance’, Vol. 22, No. 5/6 Sep. ?, 1938.
- ‘A New Life for the Chinese Republic’, Vol. 27 (New Series), Nos. 1-6, Aug/Oct. 28, 1939.
- ‘Securing Peace with Honour: Statement and other Documents’, Vol. 27 (New Series), Aug./Oct. 28, 1939.
- ‘Chiang Kai-shek’s Magnetic Warfare’, Vol. 29, No. 1-1, July 29, 1940.
- ‘The Facts of peace and Reconstruction’, Vol. 30, No. 5-8, March/April ?, 1941.
- ‘Why be Pessimistic?’, Vol. 30, No. 9-12. May/June ?, 1941.

39 『中華日報』（マイクロフィルム，明治大学図書館）

「建軍之目的」（1940 年 1 月 6 日）

「対日記者談，将来施政方針」（3 月 1 日）

「総理逝世 15 周年紀念，大亞洲主義是不可摩滅真理」（3 月 12 日）

「曾仲鳴同志殉国紀念辞」（3 月 21 日）

- 「対全国広播演講，和平反共」（4月9日）
- 「対粵各界広播演詞」（4月18日）
- 「対同盟社長答覆問話」（4月29日）
- 「對於事變3周年之感想及期望」（7月7日）
- 「田螺與蝗虫」（7月22日）
- 「因紀念813而展望全国和平」（8月13日）
- 「対中高級職員訓詞」（8月14日）
- 「国慶日感言」（10月10日）
- 「關於团訓『誠明廉毅』的解釈」（10月10日）
- 「革命軍人の心理建設」（11月12日）
- 「民族主義與大亞洲主義」（11月13日）
- 「向日国民広播全文」（11月16日）
- 「在聯盟会上闡術聯盟主義」（1941年2月2日）
- 「結成東亜軸心供獻世界和平」（7月21日）
- 「努力促進全面和平完成時代偉大使命」（8月7日）
- 「痛斥共产党等蔑視儒教之不当」（8月18日）
- 「紀念和運殉国先烈」（9月2日）
- 「30年国慶日致辞」（10月10日）
- 「在四中全会致開會詞全文」（11月10日）
- 「国父誕辰献詞」（11月13日）
- 「中日締結週年紀念」（11月30日）
- 「闡釈保衛東亜戦争意義—汪主席対全国広播昭示三点共甘同甘與日協力」（12月19日）
- 「與日万首相挙行交換広播演説」（1942年1月1日）
- 「対全国広播協力大東亜戦争実行精神総動員」（2月1日）
- 「曾先烈殉国三周年」（3月23日）

- 「接見中外記者，發表國府施政方針」（3月29日）
「勵行節約緊張工作同心協力復興東亞—巡視清鄉區對各界訓話」（4月19日）
「為清鄉周年告全國民眾」（7月1日）
「掃除全面和平障礙促大亞洲主義實現」（7月7日）
「鴉片戰爭百年紀念」（8月30日）
「告滬分會及民眾書—以廉潔勇致精神執行清鄉」（9月1日）
「將校團第三期學員」（10月21日）
「本新國民運動完成和建使命」（11月19日）
「告日本國民—中國朝野已團結一致願與友邦攜手並進」（12月26日）
「今年新國民運動之要點」（1943年1月1日）
「確保勝利確保戰爭」（1月3日）
「發表告將士書」（1月19日）
「參戰後我們的責任」（2月14日）
「敬告全國國民，大東亞戰爭是大東亞民族總力戰」（3月30日）
「清鄉二週目」（7月2日）
「決戰第一—完全興亞保亞使命」（1944年1月1日）

III 書簡・電報

1 辛亥革命前後

- 「清末汪兆銘被捕後的供單及有關史料」（中國第一歷史檔案館編）『歷史檔案』
1983年第2期（總第10期），1983年5月
『孫中山所藏檔選編（辛亥革命前後）』（黃彥・李伯新編，中華書局，1986年）
所收
• 南北議和與北京兵變
「京津同盟會致汪精衛電」（1912年1月）

「李石曾朱蒂煌致汪精衛電」(1912年2月9日, 10日)

「盧毅致汪精衛電」(1912年3月2日收到)

「京津同盟会致汪精衛等電」(1912年3月2日)

「趙鉄橋致汪精衛電」(1912年3月2日)

「胡漢民致唐紹儀汪精衛電」(1912年3月3日)

「広東旅津愛国団致唐紹儀汪精衛電」(1912年3月3日)

「李兼善胡定宇等致唐紹儀汪精衛電」(1912年3月3日)

「胡漢民致汪精衛電」(1912年3月5日)

「汪精衛致胡漢民電」(1912年3月6日)

「胡漢民致唐紹儀汪精衛電」(1912年3月6日)

「汪精衛等致王寵惠電」(1912年3月7日)

「王寵惠致汪精衛等電」(1912年3月8日)

「蔡元培汪精衛致孫中山等電」(1912年3月15日)

「蔡元培汪精衛致唐紹儀電」(1912年3月15日)

• 財政

「汪精衛致孫中山黃興電」(1912年2月11日)

「汪精衛致孫中山電」(1912年2月15日)

「汪精衛致天津諸同盟會員電」(1912年3月9日)

• 泗水事件

「上海華僑連合会致汪精衛電」(1912年3月1日, 6日收到, 9日)

「汪精衛致上海華僑連合会電」(1912年3月10日)

「汪精衛致胡漢民電」(1912年2月16日)

「唐紹儀致汪精衛電」(1912年4月30日)

「汪精衛致孫中山函」(1912年8月9日)

『辛亥革命在上海史料選輯』(上海社会科学院歴史研究所編, 上海人民出版社,
1966年) 所収

「致黃興函」(1913年1月14日)

「接趙鳳昌等(張謇)電」(3月某日)

「接趙鳳昌函」(6月10日)

「致張謇函」(7月19日)

『民初政争与二次革命』(中国社会科学院近代史研究所中華民國史研究室主編,

朱宗震・楊光輝編,上海人民出版社,1983年)所收電報2本

「蔡元培汪兆銘唐紹儀請袁世凱辭職電」(1913年7月19日)

「袁世凱復蔡子民汪精衛唐少川電」(1913年7月23日)

2 北伐期

『中華民國史檔案資料匯編』第4編(中国第二歷史檔案館編,江蘇古籍出版社,1994年)

「索取有閱孫文親筆批答容共文件致鄧澤如函」(1925年) p. 260

「在国民党“二大”會議上說明接受孫中山遺囑經過錄」(1926年1月4日)
p. 267

「在国民党“二大”會議上致閉會詞記錄」(1926年1月19日) p. 341

「国民政府關於中山艦事件布告」(1926年3月) p. 370-371

「飭學生軍遵令開拔虎門電」(1925年10月25日) p. 853

「汪兆銘等關於組織廣西省政府問題函原稿」(1925年7月22日) p. 906

『白崇禧將軍北伐史料』(黃嘉謨編,中央研究院近代史研究所,1994年)

「131,汪兆銘等致李宗仁等電」(1927年8月10日)

「140,汪兆銘譚延闓等決即來寧電」(8月18日)

「144,汪兆銘等請一意渡江作戰電」(8月19日)

「汪精衛致王懋功密函選」(上海檔案館編『歷史檔案』1984年第4期(總第16期),1984年11月)

『中華民國史檔案資料匯編』第5輯第1編政治(二)(中国第二歷史檔案館編,
(403)

江蘇古籍出版社，1994年)

「汪精衛等關於最近黨務政治宣言」(1929年3月11日) p. 646

「關於召開國民黨“4大”條件致朱培德函」(1931年9月6日)

『中華民國史檔案資料匯編』第5輯第1編政治五

〔五〕 民族事務

(三) 「所藏事」二，黃慕松宛電報(47, 52, 54, 60, 65, 66, 77, 80, 82, 83, 86, 88, 89, 95, 98)，p. 216-248

(四) 「新疆省政情」二，黃慕松宛電稿1本(p. 545)，白錫爾等宛電稿1本(p. 548)

(七) 重大歷史事件(一)，7. 「在國難會議開幕式上的開幕詞」(1932年4月8日)，p. 673

「國民黨非常會議史料一束」上海市檔案館，馮紹霆編『檔案與歷史』1988年第1期(總第11期)，1988年3月5日

「1931年寧粵和平會議」中國第2歷史檔案館編『歷史檔案』1982年第1期(總第5期)，1982年2月

3 蔣汪合作政權

『中華民國史檔案資料匯編』(第5輯第1編外交(二)，中國第二歷史檔案館，1994年)

「為《上海停戰協定》不能推翻的弁詞」(1932年5月) p. 758

「對日本提出4項要求的意見致孔祥熙密電」(1935年6月8日) p. 858

「為借款問題與有吉公使的談話記錄」(1935年3月28日) p. 980

「為關稅問題與有吉公使的談話記錄」(1935年3月28日) p. 981

「蔣廷黻關於汪精衛公館舉行國際問題座談会上有關於德義關係談話記錄」(1938年10月7日)

「何梅協定前夕汪精衛致孔祥熙密電一件」(1935年6月10日)，『民國檔案』

1989年第2期（總第16期），1989年5月

「西安事變前後汪精衛與陳璧君等來往電函」（蔡德金編），『近代史資料』總60号，1986年

『胡適來往書信選』（中卷），中華書局，1979年（社會科學文獻出版社，2013年再版）

「610，汪精衛致胡適」（1932年6月18日）

「673，汪精衛致胡適」（1933年3月31日）

「675，胡適致汪精衛（稿）」（1933年4月8日）

「677，汪精衛致胡適」（4月23日）

「678，汪精衛致胡適」（4月28日）

「682，汪精衛致胡適」（6月13日）

「683，汪精衛致胡適」（6月15日）

「686，汪精衛致胡適」（11月22日）

「688，汪精衛致胡適」（11月28日）

「691，胡適致汪精衛（稿）」（12月20日）

「692，汪精衛致胡適」（12月25日）

「695，胡適致汪精衛（稿）」（1934年2月17日）

「715，汪精衛致胡適」（9月28日）

「716，汪精衛致胡適」（11月1日）

「722，汪精衛致胡適」

「731，汪精衛致胡適，蔣夢麟，傅斯年」（1935年10月11日）

「797，汪精衛致胡適」（1937年8月4日）

「798，汪精衛致胡適」（1937年8月19日）

黃自進・陳佑慎・蘇聖雄主編『近代中日關係史料彙編—1930年代的華北特殊化』（全3卷）開源書局，2019年

4 汪精衛政權前後

- 陳木杉『從函電史料觀汪精衛檔案中的史事與人物新探』學生書局，1997 年
- 史事：改組派（李世榮の汪宛報告），還曆祝電，特工との關係，「国旗」問題
- 人物：陳璧君，陳公博，曾仲鳴，丁默邨，王蔭泰，高宗武，陶希聖，龍雲，何鍵，張景惠
- 「汪精衛致近衛文麿函」（1939-1941 年）4 本，『檔案與歷史』1988 年第 4 期季刊（總第 14 期），1988 年 12 月 5 日
- 「1939 年底汪精衛周佛海致陶希聖函」，同上
- 李廷江編『近代中日關係源流—晚清中國名人致近衛篤麿書簡』社会科学文獻出版社，2011 年
- 「近衛文麿宛書簡」（1941 年 10 月 20 日）
- 「近衛文麿との筆談録」（1939 年 6 月）
- 『日偽上海市政府』（上海市檔案館編，檔案出版社，1986 年）所收 3 本
- 「汪精衛為“還都”南京要求暫維政務現狀與市府來往電」（1940 年 4 月 3 日，5 日）
- 「汪精衛關於蘇錫文代行市庁職務電及市府呈」（1940 年 10 月）
- 「汪精衛關於撫綏租界民衆手諭」（1941 年 12 月 24 日）
- 「致李聖五（教育部長）函」（1941 年 8 月 17 日），『民國春秋』1990 年第 2 期（總第 20 期），1990 年 3 月 25 日
- 「汪精衛日記（一）」（1940 年），『檔案與歷史』1988 年第 1 期季刊（總第 11 期），1988 年 3 月 5 日
- 「重光葵關於同汪精衛會談情況的報告」（1942 年 2 月 2 日），『檔案與歷史』1988 年第 3 期季刊（總第 13 期），1988 年 9 月 5 日

IV 傳 記

1 書 籍

① 中 文

張江裁纂『汪精衛先生行實錄（他二種）』古佚小說會，香港，2008年

（以下5冊収録）

張江裁纂『汪精衛先生行實錄』（捋袁堂，1943年1月）

張江裁纂『汪精衛先生著述年表』（捋袁堂，1943年1月）

張江裁纂『汪先生庚戌蒙難實錄』（捋袁堂，1943年1月）

汪兆鏞著『山陰汪氏譜』（汪敬德堂，1947年）

『汪精衛先生集—雙照樓詩詞藁』（汪主席遺訓編纂委員會，1945年）

小休止卷上

掃葉集卷下

中国国民党中央執行委員會宣傳部編『汪精逆衛之總檢査』編者印行，

1938年（東洋文庫所所蔵）

錢俊瑞『汪精衛売国の理論与实践』各大書店，1940年4月

龔德柏『汪精衛降敵売国密使』汗牛書屋，台灣，1968年

李焰生『汪精衛戀愛史』出版社不詳，1961年

徐鏄成『報刊旧聞』上海人民出版社，1981年

雷鳴『汪精衛先生伝』上海書店，1989年10月（政治月刊出版社，1943年）

蔡德金『汪精衛評伝』四川人民出版社，1988年

李理・夏潮『汪精衛評伝』武漢出版社，1988年

聞少華『汪精衛伝』吉林文史出版社，1988年

←陳鉄健「読《汪精衛伝》」『近代史研究』1988年第3期（総第45期），

1988年5月

- 胡月偉『最高級叛逃』浙江文芸出版社，1988年 ←小説
- 程舒偉『汪精衛与陳璧君』吉林文史出版社，1988年
- 何卓改編『汪精衛集团浮沈記』四川人民出版社，1989年
- 王雲高『汪精衛叛国前後』中国華僑出版，1991年 ←小説
- 王光遠・姜中秋『汪精衛与陳璧君』中国青年出版社，1992年
- 蔡德金・王升編『汪精衛生平紀事』中国文史出版社，1993年
- 王閔興『汪精衛伝』安徽人民出版社，1993年
- 王朝柱『汪精衛和蒋介石』中国青年出版社，1993年 ←文学作品
- 陳瑞雲『蒋介石和汪精衛』吉林文史出版社，1994年
- 譚天河『汪精衛生平』広東人民出版社，1996年11月
- 林闊編著『中国最卑劣の漢奸王—汪精衛全伝』中国文史出版社，2001年
- 陳瑞雲『走向権欲の祭壇—蒋介石和汪精衛』团结出版，2009年
- 張殿興『汪精衛附逆研究』人民出版社，2008年
- 張殿興『蒋介石与汪精衛の恩恩怨怨』人民出版社，2009年
- 陳大為『汪精衛大伝』華文出版社，2010年
- 程舒偉・鄭瑞峰『汪精衛』团结出版社，2011年
- 臧卓『我在蒋介石與汪精衛身邊の日々』独立作家，2013年
- 蒋斌『民国主席档案』人民日報出版社，2013年
- 李志毓『驚弦—汪精衛政治生涯』牛津出版社，香港，2014年
- 張殿興『国民党三巨頭—蒋介石，汪精衛，胡漢民』台海出版社，2014年

② 日 文

- 安藤徳器編訳『汪精衛自叙伝』大日本雄弁会講談社，1941年
- 森田正夫『汪兆銘』東亜文化協会，1939年

沢田謙『叙伝、汪兆銘』春秋社、1939 年

青年書房編『汪兆銘を語る』青年書房、1939 年

松山悦三『人間汪兆銘』人生社、1940 年

山中峰太郎『新中国の大指導者、汪精衛』潮文閣、1942 年

譚覺眞「中華民国・最後の人—和平運動と汪精衛」『潜行三十年』文言社、1977 年

山中徳雄『和平は売国か—ある汪兆銘伝』不二出版、1990 年

杉森久英『人われを漢奸と呼ぶ—汪兆銘』文藝春秋、1989 年

上坂冬子『汪兆銘の真実』上下二巻、講談社、1999 年

雷鳴（柴田哲雄・手塚利彰訳）「汪精衛先生伝」(1)～(3)愛知学院大学教養部紀要第 52 巻第 3 号、4 号、2005 年、第 53 巻第 1 号、2006 年
柴田哲雄『汪兆銘と胡耀邦 — 民主化を求めた中国指導者の悲劇』彩流社、2019 年

2 論文・エッセイ

① 中 文

亜闕「汪精衛先生政治思想的基点」『民主』第 3・4 号合刊、1932 年 2 月

姜君辰「論汪兆銘叛國案」『國民公論』第 1 巻第 5・6 号合刊、1939 年 1 月 16 日

千家駒「清除汪逆的思想毒素」『國民公論』第 2 巻第 1 号、1939 年 7 月 1 日

夏衍「国賊汪精衛の窮余一策」『國民公論』第 2 巻第 12 号、1939 年 12 月 16 日

以上は陽明書屋所蔵

馬五先生「胡漢民与汪精衛」『中外雜誌』（台湾）第 5 巻第 5 期、1969

年5月(1969)

王盛濤「汪精衛一生禍國史實」『春秋』第15卷第6期, 1971年

陶菊隱「汪精衛這個人」『中外雜誌』(台灣)第10卷第6期, 1971年12月

劉文煥「追隨汪精衛的一段往事」『伝記文学』(台灣)第22卷第1期, 1973年

丁賢俊・聞少華「一个投降派的典型—汪精衛」『歷史研究』1976年第4期(総第11期), 1976年8月

費雲文「汪精衛的一生(1)~(3)」『中外雜誌』(台灣)第20卷第4~6期, 1976年10~12月

徐鏞成「從溥儀到汪精衛」『報海旧聞』上海人民出版社, 1981年

聞少華・丁賢俊「从刺到被刺的汪精衛」『文物天地』1982年第5期, 1982年9月30日

楚任「汪精衛—从志士到買國賊」『人物』1982年第6期, 1982年11月8日

黃美真・李華興「辛亥革命前後的汪精衛」李新・任一民編『辛亥革命時期的歷史人物』, 中國青年出版社, 1983年

朱庸齋「汪精衛与陳璧君」『文史集萃』第2輯, 1983年12月(原載『廣東文史資料選輯』第2輯)

聞少華・丁賢俊「汪精衛」中國社會科學院近代史研究所中華民國史研究室編『中華民國資料叢稿, 人物伝記第20輯』1984年

楊仲子「楊廣笙罵汪精衛」『人物』1984年第3期, 1984年5月

楊玉清「我所知道的汪精衛」武漢『春秋』1987年第3期

關志昌「汪兆銘其人其事」『伝記文学』第51期第5期, 1987年11月

馬長林「方鏗夫婦所捐汪精衛日記是真迹」『民國春秋』1988年第2期(総第8期), 1988年3月25日

- 陳鉄健「読《汪精衛伝》」『近代史研究』1988年第3期（総第45期），
1988年5月
- 趙世洵「汪精衛日記可能係他人代筆」『伝記文学』第53卷第1期，1988
年7月
- 劉紅「汪精衛与五个女人」『縦横』1990年第4期（総第40期）
- 王光遠・姜中秋「陳嘉庚怒斥汪精衛」『北京档案史料』（季刊）1990年
第3期（総19期），1990年8月
- 馮紹霆『汪精衛日記』先睹記『伝記文学』第56期，第5卷，1990年
- 計錫麟「汪精衛“視察”無錫」『縦横』1991年第1期（総第43期）
- 遠秋「汪精衛做寿生悲」『南京史志』，1991年第6期（総第50期）
- 彭沢周「汪精衛與近衛首相—汪精衛滯留河內的猶予与苦痛」『伝記文学』
第58卷第3期，1991年4月
- 王邗華「汪精衛與方君瑛的恋情及其化身」『伝記文学』第58卷第4期，
1991年4月
- 聞少華・丁賢俊「汪精衛」『民国人物伝』第7卷（朱信泉・宗志文主編），
中華書局，1993年
- 蔣永敬「汪精衛從『和平』運動到投日：王世傑日記中的人物與史事」
『伝記文学』第62卷第2期，1993年2月
- 蔣永敬「玩火自焚的国民党接班人—汪精衛」蔣永敬『百年老店国民党滄
桑史』伝記文学出版社，1993年
- 陳昌祖「参与汪『和平運動』始末（上）」『伝記文学』第66卷第2期，
1994年2月
- 陳昌祖「参与汪『和平運動』始末」（続完）同上，第66卷第4期，1994
年4月
- 陳存仁「褚民誼生也糊塗死也糊塗」『伝記文学』第59卷第3期，1994
年3月

張伝新・司猷英「汪精衛假讓賢蒋介石真争権」『縦横』1995年第4期
(総第40期), 1995年6月15日

「汪精衛の紅顔知己方君瑛」王邗華等編『民国名人浪漫史』江蘇古籍出版社, 1996年所収

正光主編「汪精衛与風流女」『環球青年』1998年第3期(総第41期),
1998年4月

蔣永敬「汪兆銘伝」『国史館館刊』復刊第26期, 1999年6月

汪榮祖・李敖「第7章第1節蔣汪双簧之謎」『蒋介石評伝』中国友誼出版, 2000年

謝曉鵬「汪精衛政治思想的演變及特点」『中国現代史』, 2005年第8期
何明主編「第一編, 汪精衛: 死後被掘墓拋屍」『国民政府主席的最後結局』, 中共党史出版社, 2008年

聞少華「汪精衛是死了于上海嗎—与吳越先生商榷」『中国現代史』, 2010年10期

李志毓「汪精衛的性格予政治命運」『中国現代史』, 2011年第6期

蔡思行・彭淑敏・區志堅「汪精衛: 也曾至誠欲報告」『辛亥人物群像』
中華書局, 2011年

② 日 文

宮崎市定「馮道と汪兆銘」『東亜時論』第2巻第2号, 1960年2月

譚覚真・江藤淳「語られ始めた日中最大のタブー: 抹殺された愛国者汪
兆銘の真実」, 『諸君』1988年6月号

桶谷秀昭・保阪正康「戦後53年目の真実—汪兆銘とは何だったか」『諸
君』1998年9月

桶谷秀昭「第17章汪兆銘和平運動の悲劇」『昭和と精神史』文春文庫,
1996年

井尻千男「一度死んだ男・汪兆銘の魅力」『選択』2004年2月

土屋光芳「汪精衛政権の対日『コラボレーション』は何故「漢奸」とされたか」 明治大学政治経済学部創設百周年記念叢書刊行委員会編『アジア学への誘い—国際地域の社会科学』明治大学政治経済学部, 2008 年

土屋光芳「『裏切者』の政治学—汪精衛（1884-1944）は『漢奸』か」『ようこそ！政治経済学部の知の世界へ—Ⅲ』明治大学政治経済学部, 御茶の水書房, 2010 年

③ 英 文

Tang leangli, *The Inner History of The Chinese Revolution*, Arlington, Virginia: University Publications of America, 1975 (1930)

Tang leangli, 'Wang Chingwei: Leader of China Renascent', *People's Tribune*, vol. 4, no. 5, april. 1, 1938, pp. 241-252.

Boorman, Howard L, 'Wang Chingwei: China 'Romantic Radical'', *Political Science Quarterly*, vol. 78, no. 4, 1960

V 辛亥革命

1 汪精衛と梁啓超の論争

「駁新民叢報最近之非革命論」『民報』第4号（1906年5月，第1-7号合訂本，科学出版社，1957年）

「駁革命可以召瓜分説」『民報』第6号，1907年1月三版，同上合訂本

「再駁新民叢報之政治革命」『民報』第6号同上，第7号，1906年9月

「滿州立憲与国民革命」『民報』第8号，1906年10月

「駁革命可以生内乱説」『民報』第9号，1906年12月三版

曼華「同盟会時代民報始末期」『革命文献』第2輯（中国国民党中央委员会党史史料編纂委員会，中央文物供应社）

黄樸「辛亥革命前の胡漢民和汪精衛」『広東文史資料』第58期，1988年11月

2 回想と史料

① 国事共済会

「国事共済会宣言書付簡章」(1911年11月15日)，劉晴波主編『楊度集』，湖南人民出版社，1986年
陶菊隱「第六章 楊度和汪精衛」『籌安会「六君子」伝』中華書局，1981年

② 暗殺未遂事件

房少橋「謀炸摂政王余事」『北京文史資料選編』第11輯，1981年9月
尹潤生「從『銀錠觀山』談汪精衛行刺載灃」中国人民政治協商會議北京市委員会文史資料委員会編『文史資料選輯』第14輯，1982年9月
中国第1歴史档案馆「清末汪兆銘被捕後供单及有関史料」『歴史档案』1983年第2期（総10集），1983年5月

馮自由「汪黄謀炸清摂政王」中華民国開国五十年文献編纂委員会編纂『中華民国開国五十年文献，革命之倡導与発展，中国同盟會三』，正中書局，1964年初版，1969年第2版。

馮自由『中華民国開国前革命史（2冊）』世界書局，台北，1954年，230-252ページ

黄復生「黄復生革命回憶錄一節録炸摂政王一段」，同上，中国国民党党史史料編纂委員会庫所蔵

何香凝『回憶孫中山和廖仲愷』生活・読書・新知三連書店，1978年

黄闔寅「庚戌年謀炸載灃別紀」邱權政・杜春和選編『辛亥革命史料選輯続編』，湖南人民出版社，1983年

崎村義郎著・久保田文次編『萱野長知研究』高知市民図書館，1996年，

83-84 ページ

③ 天津同盟会など

辛公頤「辛亥革命時期天津的革命活動」『天津文史資料選輯』第 16 輯,

1981 年 8 月

黃以鏞「記京津同盟回分会成立之經過」邱權政・杜春和選編『辛亥革命史料選輯』, 湖南人民出版社, 1981 年

劉仙洲「辛亥革命後保定革命運動回憶録」『辛亥革命回憶録 (一)』文史資料出版社, 1981 年

④ 袁世凱との取引

胡鄂公『辛亥革命北方実録』中華書局, 1948 年

甘蔭「辛亥革命之秘史」(中国史学会主編『辛亥革命 (一)』上海人民出版社, 1957 年)

張國淦『辛亥革命史料』龍門連合書局, 上海, 1958 年

上海社会科学院歴史研究所編『辛亥革命在上海史料選輯』上海人民出版社, 1966 年

吳玉章「武昌起義前後到二次革命」(中国人民政治協商会議合同委員会文史資料委員会編『辛亥革命回憶録 (一)』文史資料出版社, 1981 年 8 月)

鄧警重「汪精衛誤国記」(同上編『辛亥革命回憶録 (八)』文史資料出版社, 1982 年 4 月)

⑤ 兄(兆鏞)との関係

「汪兆鏞窘汪兆銘」許金城輯『民国野史』所収(沈雲龍主編『近代中国資料叢刊』文海出版社, 1973 年)

⑥ その他

「法政速成科試験成績表」(『法政大学史資料集』第 11 集, 法政大学, 1988 年 3 月)

「汪兆銘小史」「汪精衛之婚事談」「汪兆銘暗殺史」「汪兆銘之詩詞」(姜泣群編『民国野史』山西省古籍出版社・山西教育出版社, 1999年)
雷鉄崖「汪精衛与胡絳武」(1911年11月3日)唐文樞編『雷鉄崖集』
華中師範大学 出版社, 1986年
「汪精衛高潔可風」(1913年3月10日), 同上
鄧慕韓「辛亥廣州光復記」(中華民国開国五十年文献編纂委員会編纂
『中華民国開国五十年文献第二編, 第四冊, 各省光復』(中)正中書
局, 1963年初版, 1966年第2版)

3 研究

永井算巳「汪兆銘の庚戌事件とその政治的背景」『信州大学文理学部紀要』
第11巻1961年12月。永井算巳『中国近代政治史論叢』(汲古書院,
1983年)所収
永井算巳「清末における在康梁派の政治動静(その2)―新民叢報と民報の
論争」信州大学人文学部文学科『人文科学論集』第2号, 1967年12月
永井算巳「民報続刊をめぐる2, 3の問題」『人文科学論集』第8号, 1974
年
堀川哲男『『民報』と『新民叢報』の論争の一側面―革命は瓜分を招くか』
『田村博士 頌壽東洋史論叢』, 1968年
波多野善大「辛亥革命期の汪兆銘」『愛知学院大学文学部紀要』第12号,
1982年
波多野善大「辛亥革命の南北議和と汪兆銘―汪が議和会議に出席した日付
について―」小野勝年博士頌寿記念『東方学論集』朋友書店, 1982年
楠瀬正明「辛亥革命期における汪精衛の『国民主義』」『史学研究』第152号,
1982年
伊潤生「从“銀錠觀山”談到汪精衛行刺載灃」, 中国人民政治協商會議北京

- 市委員會文史資料委員會編『文史資料選編』第14輯，1982年9月
周新「汪精衛勾結袁世凱的一段史實」『伝記文学』第40卷第6期，1982年6月（1982年）
- 黃美真・李華興「辛亥革命前後之汪精衛」李新・任一民編『辛亥革命時期的歷史人物』中國青年出版社，1983年
- 聞少華「汪精衛與“國事共濟會”」『南開學報』1985年第3期，1985年5月
- 劉民山「汪精衛在辛亥革命前後的叛變活動」『歷史教學』1985年第4期，1985年4月5日
- 陳映芳「汪精衛謀炸攝政王地點不在銀錠橋」『民國春秋』，1988年第2期（總第8期），1988年3月25日
- 王光遠・姜中秋「汪精衛謀炸攝政王」『北京檔案史料』（季刊）1990年第1期（總17期），1990年2月
- 鄧寶善「辛亥前後汪精衛和袁世凱的曖昧交往」『歷史與人物』2010年第3期，2010年3月10日
- 裴京漢「汪精衛早期的民族思想—從同盟會到國民革命時期汪精衛的反帝認識及其局限性」『民國研究』總17集，2011年3月

VI 國民革命期

1 史料

- 榮孟源主編『中國國民黨歷次代表大會及中央全會資料』上下冊，光明日報出版社，1985年
- 蔣永敬編『北伐時期的政治史料—1927年的中國』正中書局，1981年
- 『廣州事變與上海會議』大海出版社，發行年不詳
- 「國民革命軍出師北伐史料」中國國民党中央委員會黨史史料編纂委員會編『革命文獻』第12輯-21輯，中央文物供應社，1978年再版

「清除共匪反乱史料」同上，第25輯

「汪精衛陳独秀連合宣言」同上，第16輯

汪兆銘「武漢分裂之經過」同上

「汪兆銘等向4中全会予備會議提請蔣總司令復職案原文」同上

「汪兆銘於賀龍葉挺在広州叛變後發表其本人態度之聲明」同上

「羅易，汪精衛“電報事件”檔案」『近代史資料』総93号，1998年3月

汪兆銘「報告寧漢合作之經過」同上，蔣永敬編著

汪兆銘「対中共南昌暴動之報告」同上

汪兆銘「対第2次粵變之弁護」同上

Wang Ching-wei and others, *The Chinese National Revolution: Essays and Documents*, Peiping: China United Press, 1931

T'ang Leang-Li, *The Inner History of Chinese Revolution*, London: George Routledge & Sons, 1930

2 回 想

吳稚暉「最近寄汪精衛先生書（通信与討論）」『革命週報』第2冊（第11～20期），1927年8月

碧波「嗚呼汪精衛」『革命週報』第4卷第34期，1928年3月

三餘「木腦殼汪精衛」同上

許声「我們趕快歡迎汪主席回国邑」『革命週報』第6卷第65期，1928年10月8日

瞿秋白「軍閥混戰和汪精衛」『布尔塞維克』第3卷第2・3期，1930年3月15日

漢南「關於『汪陳護党』告新評論記者」『革命週報』第6卷第78期，1929年1月6日

包惠僧「中山艦事件前後」『文史資料選輯』第2輯，1960年2月

- 馬文卓遺稿「中山艦事件的內幕」『文史資料選輯』第45輯，1964年
- 吳玉章「國民黨改組前後和大革命的失敗」『中共黨史資料』，1984年10月
- 山西文史資料編輯部『中原大戰內幕』山西人民出版社，1994年
- 楊玉清「大革命時代武漢的汪精衛」『武漢文史資料』第4輯，1983年
- 楊玉清「我所知道的汪精衛」武漢『春秋』，1987年第3期
- 夏蓮瑛（訪談記錄）・鄭義（校注）『蔣介石與我一張發奎上將回憶錄』香港文化藝術出版社，2008年

3 研究

- 野沢豊編『中国国民革命史の研究』青木書店，1974年
- 中国現代史研究会編『中国国民政府の研究』汲古書院，1986年
- 栃木利夫・坂野良吉『中国国民革命一戦間東アジアの地殻變動』法政大学出版局，1997年
- 北村稔『第1次国共合作の研究—現代中国を形成した二大勢力の出現』岩波書店，1998年
- 土屋光芳『汪精衛と「民主化の企て」』人間の科学社，2000年
- 坂野良吉『中国国民革命政治過程の研究』校倉書房，2004年

① 広州政府期

- 中共広東省党委党史研究会弁公室広東省档案館『中山艦事件』編者印行，1981年
- 曾慶榴『広州国民政府』広東人民出版社，1996年
- Wang, Ke-wen, 'Wang Jingwei and the Guangzhou Regimes, 1917-1928', *Republican China*, Vol. 22, No. 1, Nov. 1996
- 楊天石『『中山艦事件』之謎』『歷史研究』1988年第2期（総第192期），1988年4月
- 張世峰・雷紹鋒「蘇連顧問在中山艦事件上对蒋介石的妥政策初探」『史

- 学月刊』1986年第4期（総第162期），1986年7月
- 李國昉「國父去世後汪精衛の争權」『民國史論集』，南天書局，台北，1990年
- 楊天石「中山艦事件之後」『歷史研究』1991年第5期（総第219期），1992年10月
- 朱宝琴「从国民党改組到孫中山逝世前後的汪精衛」『民国档案』1995年第3期（総第41期），1995年8月
- 裴京漢「中山艦事件後の真相和汪精衛出洋的原因」『民国研究』第4期，1998年，6月30日
- 許育銘「孫中山去世後の汪兆銘與党政糾紛」『史学的伝承—蔣永敬教授八秩榮慶論文集』，近代中国出版社，2001年9月
- 波多野善大「中山艦事件について」『中国近代軍閥の研究』河出書房新社，1973年
- 北村稔「広東国民政府における政治抗争と蒋介石の台頭」『史林』68巻6号，1985年11月

② 武漢政府期

- 武漢国民政府資料選編編輯組『武漢国民政府資料選編』編者，1986年
- 蔣永敬『鮑羅廷与武漢政權』伝記文学出版社，1972年
- 李雲漢『從容共到清党』李雲漢（総經銷及人書房），1986年（1966年初版）
- 劉繼増・毛磊・袁繼成『武漢国民政府史』湖北人民出版社，1986年
- 李雲漢「武漢政權の兩個首腦人物：徐謙与汪精衛」『伝記文学』第32巻第5期，1978年5月
- 吳德華「述評論武漢政府時期的汪精衛」王維礼等編選『第1次国内革命戦争討論集』遼寧師範学院科研处，沈陽，1981年
- 黄美真・張云「論第1次国内革命戦争時期的汪精衛」中国社会科学院近

代史研究所《近代史研究》編輯部，宗士堂・侯便杰主編『近代中國人物』第1輯，中國社會科學出版社・重慶出版社，1983年夏潮「也談大革命時期汪精衛的右轉」『教學與研究』1986年第3期，1986年5月28日

王光遠「北伐時期的“迎汪”運動」『北京檔案史料』1994年第4期（總第36期），1994年12月

蔣永敬「北伐期間『迎汪復職』問題」『近代中國』第114期，1996年8月31日

譚璐美「スターリンと汪兆銘『幻の密約』」『新潮45』2001年7月

③ 南京政府期

馮春明「關於1927年4月蔣介石汪精衛上海會談」『歷史檔案』1983年第3期（總第11期），1983年8月

4 この時期の汪精衛の論文・講演など

「中國國民黨何以有此次的宣言」恂如編『汪精衛集』第3卷，光明書局，1929年

「中國實業之救濟方法」同上

「怎樣纔能實行民生主義」同上

「全國國民會議促成會總會開幕日演說詞」同上

「『平和』『奮鬥』『救中國』」同上

「國民革命之意義」同上

「國民政府特別黨部成立日演說詞」同上

「第2次全國代表大會開幕日演說詞」同上

「第2次全國代表大會歡迎詞」同上

「對第3期同業畢業訓話」同上

「第2次全國代表大會閉幕詞」同上

「黄埔軍官学校成立典礼訓話」同上

「總理逝世一周年記念大会訓話」同上

「武力与国民結合」同上

「党与民衆運動」同上

「我們要建設怎樣的國家」同上

「敬告江西民衆」同上

「主義与政策」同上

「夾攻中之奮鬪」同上

「錯誤与糾正」同上

「懷廖仲愷同志」同上

「在南京歡迎会上演說詞」同上

「在南京第 2 次歡迎会上演說詞」同上

「寧漢合作之經過」同上

「与南京代表团商榷回復中央党部之經過」同上

「在廣東省党部廣州特別市党部歡迎会之演說」同上

「武漢分共之經過」同上

「分共以後」同上

「兩件大事」『廣州事变与上海會議』下編，大海出版社，發行年不詳

「談話—汪精衛對第 2 次粵变之弁護」同上

「文電—汪精衛自白之通電原文」同上

VII 改組派

1 指導者

① 陳公博

「我對於第三党的態度」中国国民党的宣传部編『機會主義第三党』編者

出版，1928 年

「今後的国民党」『陳公博先生文集』上冊，香港遠東圖書，1967 年（1929 年初版）

「党的改組原則」同上

「党的改組方法和原則」同上

「目前怎樣建設國家資本」同上

「中国国民党所代表的是什麼」同上

「中国国民党的危機和我的錯誤」同上下冊

『陳公博自伝』南国出版社，1957 年

『陳公博周仏海回憶錄合編』春秋出版社，1967 年

『苦笑錄：陳公博回憶一九二五——一九三六』香港大學亞洲研究中心，1979 年

典琦「国民党的新理論家——陳公博」『布爾塞維克』第 22 期，1928 年 6 月

② 顧孟余

顧孟余「關於階級問題之最後一言」『汪精衛先生最近言論集』中華日報出版社，1931 年 10 月 10 日

顧孟余「論唯物史觀」，同上

周德偉『落筆驚風雨——我的一生与国民党的点滴』遠流，台北，2011 年

黃克武『顧孟餘的清高一中國近代史的另一種不可能』香港中文大學出版社，2020 年

2 資 料

山西文史資料編集部『中原對戰内幕』山西人民出版社，1994 年

『廣州事變与上海會議』文海出版社，發行年不詳

『現代史料』海天出版社，波文書局，香港 1980 年復刻版

王唯廉「汪精衛一自馬賽到武漢」，第一集上編，1933年

王唯廉「汪精衛反共記」，同上

王唯廉「汪精衛与広州暴動」，同上

何甫「三中全会前之国民党各派系」，同上第二集，1934年

姜維垣「擴大会議中之瑣碎」，同上

仕廉「伝非常會議」，同上

張軍「非常會議軼事」，同上第三集，1934年

季子「非常會議之広州慘案」，同上

中国青年軍人社編『反蔣運動史』中国青年軍人社，1934年

查建瑜編『国民党改組派資料選編』湖南人民出版社，1986年

汪精衛「一個根本觀念」『汪精衛先生最近演說集』發行者，發行年不詳所収

中国人民大学中共党史系中国近現代政治思想史教研室『国民党改組派資料選輯』（編者印，1983年11月）

《第5章，改組派伙同地方軍閥進行軍事反蔣》

汪精衛「新軍閥的崩潰較北洋軍閥更快」（1929年4月8日）『革命前路』

第5期，1929年5月25日

「中国国民党護党革命大同盟緣敬（起）」（1929年5月）『護党』創刊号

「中国国民党護党革命大同盟成立宣言」（1929年5月）『護党』創刊号

「馮玉祥就国民党護党救国軍西北總司令攻擊蔣介石」（1929年5月15日）

『護党』第3期，1929年5月28日

「中国国民党第2期中央執行委員會討蔣中正宣言」（1929年9月24日）

『革命前路』第17期，1929年12月16日

「汪精衛致全国各級党部同志電」（1929年^{マツ}□月7日），同上

「中国国民党第2期中央執行委員會討蔣告党员書」（1929年10月20日），

同上

影「討蔣運動与去年度的中国貿易」（1929年10月），『改組』第1期

「石友三任護党救国軍第五路總司令就電」

「唐生智護党救国軍第四路總司令就電」

陳公博「黃埔同學目前的責任」（1929年），『黃埔戰士』創刊号，1930年7月1日

「本反共反蔣之決心作民衆之先鋒—本会（黃埔軍校革命同志会）」（1929年12月），同上

「檄黃埔革命同志討蔣書」，同上

汪精衛「昔之校長今之校賊」，同上

「誓死立于民主鬭爭旗幟之下以保護本党革命之勝利」，同上

《第6章，北平擴大會議》

「汪精衛對香港南華通信記者發表時局談話（摘錄）」（1930年3月23日）『國聞週報』第7卷第15期 1930年4月21日

「汪精衛東電」（1930年6月1日）『革命戰線』第8期，1930年6月5日

「中央党部擴大會議之必要」（1930年6月12日）『國聞週報』第7卷第30年8月4日

「汪精衛參加擴大會議途經天津時記者的談話」（1930年7月23日）同上，第7卷29期，1930年7月28日

「汪精衛就党務，擴大會議等問題對記者談話」（1930年7月25日）同上，第7卷第30期，1930年8月4日

「閻錫山，汪精衛，謝持在就職典禮式上致答詞」（1930年9月9日）同上，第7卷36期，1930年9月15日

「閻錫山，汪精衛，謝持在就職典禮後發表通電」同上

《第7章，廣州非常會議》

「汪精衛先生通電」（1931年5月1日）『民友』第1卷第5号，1931年5月4日

「汪精衛先生致李德隣總司令等冬電」（1931年5月2日），同上

「汪精衛対時局重要談話」(1931年5月4日)同上

「中国国民党中央執監委員非常會議宣言」『中央導報』第1期, 1931年7月1日

「中央執監委員非常會議致全国各党部各同志書」(1931年6月20日), 同上

汪精衛「精誠團結的幾個方法」(1931年6月26日), 同上

『中央導報』記者「討蔣記實」(1931年7月1日), 同上

「広州国民政府対和平之通電」(1931年9月21日), 『中央導報』第14期, 1931年9月31日

「広州国民政府委員致蒋介石電」(1931年9月21日), 同上

汪精衛「最近抗日討蔣之經過及此後之方針」(1931年10月5日在中央記念周報告), 『中央導報』第15期, 1931年10月7日

「非常會議麻日対時局通電」(1931年10月6日)『国聞週報』第8卷第42期, 1931年10月26日

「非常會議代表汪精衛, 孫科, 李文範, 伍朝枢到滬後發表談話」(1931年10月20日), 同上

「上海統一會議」(1931年11月2日), 同上, 第8卷第43期, 1931年11月2日

「上海會議結束發表通電」(1931年11月7日), 同上, 第8卷第45期, 1931年11月16日

「中国国民党中央執監委員非常會議召集第4次全国代表大会通電」(11月16日), 『中央導報』第22期, 1931年11月25日

孫科「広中国国民党第4次全国代表大会開會詞」(11月18日), 同上

「汪精衛致広州4全大会退席諸代表電」(11月25日), 『国聞週報』第8卷第47期, 1931年11月30日

「蒋介石敦促汪精衛从速至寧電」(11月29日), 同上, 第8卷第48期,

1931 年 12 月 7 日

「汪精衛復蔣介石電」(1931 年 11 月 30 日), 同上

「汪精衛主張召開救國會議之通電」(12 月 10 日), 同上, 第 8 卷第 49 期,

1931 年 12 月 14 日

黃中匯「樹立民主勢力與民衆運動」『中央導報』, 第 14 期, 1931 年 1 月

3 回 想

周一志「“非常會議”前後」『文史資料選輯』第 9 輯, 1960 年

李俊龍「汪精衛與擴大會議」『文史資料選輯』第 16 輯, 1961 年

何漢文「改組派回憶錄」『文史資料選輯』第 17 輯, 1961 年 5 月

何漢文「關於《改組派回憶錄》的更正」『文史資料選輯』第 23 輯

武和軒「我對改組派的一知半解」『文史資料選輯』第 36 輯, 1962 年 12 月

林延華「蔣汪密謀到桂的前因後果」『廣東文史資料』第 8 輯, 1963 年

範予遂「我所知道的改組派」『文史資料選輯』第 45 輯, 1964 年

黃夢熊「張發奎鄂西反蔣前的一些動態」『廣東文史資料』第 19 輯, 1965 年 4 月

黃占春「張發奎鄂西反蔣及聯桂攻粵戰爭回憶」『廣東文史資料』第 19 輯, 1965 年 4 月

武滅初「國民黨改組派在山西的活動」『山西文史資料』第 13 輯, 1979 年

牟龍光「蔣汪矛盾的一個側面—我參加國民黨改組派活動的回憶」『文史資料選輯』第 93 輯, 1984 年 1 月

繆約齋「也談國民黨改組派在山西的活動」,『山西文史資料』第 38 輯, 1985 年 3 月

羅方中「關於改組派的一鱗半爪」『文史資料選輯』總 1 輯, 合訂本第 1 冊, 1986 年

李武喬・張漢英「國民黨改組派在何南的始末」『開封文史資料』第 2 輯,

1985年12月

陳伯衡「我所知道的陳公博」『文史集萃』第6輯，1985年3月，

範予遂「九十回顧」『山東文史資料』第16輯，1985年

牟龍光「我参加国民党改組派活動的回憶」『廣東文史資料』第52輯，1987年8月

4 研究

三谷孝「大刀会と国民党改組派—1929年の溧陽暴動をめぐって」『中国史における社会と民衆』汲古書院，1983年

石川忠雄・山田辰雄「中国共産党の国民党改組派評価」『論集近代中国研究』山川出版社，1981年

山田辰雄『中国国民党左派の研究』慶応通信，1980年

横山宏章「第3章 蒋介石の訓政独裁と国民党の政治闘争」横山宏章『中華民国史—専制と独裁の相克』三一書房，1996年

新地比呂志「改組派の結成と中国共産党との相克」兵庫大学『東洋史訪』2009年

胡耐安「談西山會議派与改組派」『伝記文学』（台湾）第10巻第6期，1967年6月

宋仲福「改組派的性質与中国共産党的策略」『西北師院学報』，1985年第2期（総第44期），1986年4月20日

李有清「論国民党改組派」『吉林大学社会科学学報』，1988年第5期（総第89期），1989年9月10日

郭文亮「国民党改組派性質新探」『湘潭大学学報（社会科学版）』1990年第1期（総第46期），1990年1月30日

金以林「胡漢民与『非常會議』」『近代史研究』総第62期，1991年2月

夏国祥「国民党改組派性質新論」『學術月刊』1991年第4期（総第263期），

1991 年 4 月 20 日

郭緒印「國民黨改組派的反蔣運動」郭緒印『國民黨派系鬭爭史』桂冠圖書，

1993 年

夏國祥「國民黨改組派存在時間弁析－兼論改組派與汪派的關係」『學術月刊』，

1994 年第 12 期（總第 307 期），1994 年 12 月 20 日

王克文「陳公博與國民黨『改組派』」國立政治大學『歷史學報』第 14 期，

1997 年 5 月

Chen, Jerome, 'The Left Wing Kuomintang: A Definition', *Bulletin of the School of Oriental and African Studies*, Vol. 25, No. 3, 1962

Shirley James, 'Factionalism and the Kuomintang', *Studies on Asia*, Vol. 6, 1965

Geisert, Bradley K., 'From Conflict to Quiescence: The Kuomintang, Party Factionalism and Local Elites in Jiangsu, 1927-31', *China Quarterly*, No. 108, Dec, 1986

So Wai-chor, *The Kuomintang Left in the Nationalist Revolution: 1924-1931*, Hong Kong: Oxford University Press, 1991

Geisert, Bradley K., *Radicalism and Its Demise: The Chinese Nationalist Party, Factionalism and Local Elites in Jiangsu Province, 1921-1931*, Ann Arbor: Michigan: Center for Chinese Studies/The University of Michigan, 2001

VIII 蔣汪合作

1 全 般

張同新『蔣汪合作的國民政府』黑龍江人民出版社，1988 年

陳瑞雲『蔣介石和汪精衛』吉林文史出版社，1994 年

王閔興「蒋介石，汪精衛五次離合的緣由和性質」『上海師範大學學報』1989年第1期（總第39期），1989年3月

蔣永敬「胡蔣汪分合關係之演變」中央研究院近代史研究所編『近代中國歷史人物論文集』，編者出版，1993年6月

丁賢俊「沒有結成金蘭的難兄難弟－汪精衛與蔣介石」嚴如平主編『蔣介石與結拜兄弟』，團結出版社，1994年所収

土屋光芳『汪精衛と蔣汪合作政權』人間の科学社，2004年

2 国共合作の時期

① 回想，資料

劉驥「南行使命」『文史資料選輯』第4輯，1960年

唐生智「關於北伐前後幾件事的回憶」『湖南文史資料選輯』第6輯，1963年12月

張天放・濮泉「國民黨東京支部的左右派鬭爭」『文史資料選輯』第60輯，1979年1月

倪忠文「武漢政府時期的國民黨2期3中全会」『湖北文史資料』第3輯，1981年

羅翼群「廖仲愷先生被刺前後」『文史資料選輯』第85輯，1983年1月

黃爵高「蔣汪扣捕熊克武及其總部人員之經過」『成都文史資料』第4輯，1983年9月

顧執中「蔣介石與汪精衛的明爭暗鬭」『江蘇文史資料選輯』第13輯，1983年

吳玉章「國民黨改組前後和大革命的失敗」『中共黨史資料』，1984年10月

『現代史參考資料 4・12反革命政變資料選編』人民出版社，1987年

「蔣介石，汪精衛等開反共秘密會議」《申報》1927年4月8日

「蔣介石查封上海總政治部通電」《時事新報》1927年4月10日

「汪精衛談歸國赴漢上海時的情況」（1927年4月11日）《中國國民黨

中央執行委員會政治委員會第11次會議記錄》

中國第2歷史檔案館編「1927年蔣介石等連汪制桂函電選」《歷史檔案》

1984年第1期（總第13期），1984年2月

② 共產黨の対応

中央檔案館編『中共中央文件選集 第2冊 1926年』中共中央黨校出版社，1983年（中國人民大學所藏）

「陳獨秀給蔣介石的一封信」（1926年6月4日）

「中央致粵區的信：制訂左派政綱，促汪，蔣合作」（1926年9月17日）

「中央給広東信：汪，蔣問題最後的決定」（1926年9月22日）

「中央致粵區的信：時局變動與我們對汪，蔣問題之新決定」（1926年10月3日）

中央檔案館編『中共中央文件選集 第3冊 1927年』中共中央黨校出版社，1983年

「中央政治報告：關於目前形成與黨的主要工作」（1927年初）

「關於“左派國民黨”及蘇維埃口號問題決議案」（1927年9月19日政治局會議通過）

「中央通告第25號：對國民黨工作」（1927年12月31日）

蘇吉「革命叛徒的寫真」《布爾塞維克》第1卷第1期，1927年10月24日

超麟「論蔣汪同時出山」《布爾塞維克》第1卷第4期，1927年11月14日

牟龍光「蔣汪矛盾的1個側面——我參加國民黨改組派活動的回憶」《文史資料選輯》第93輯，1984年

③ 研 究

夏潮「大革命時期的汪蔣之爭」『歷史教學』1988年第9期（總第297期）

任建樹「武漢國民政府的成立，蛻變，消失：從迎汪復職到汪蔣合流（上）」

『黨史資料叢刊』，總第20期，1984年第3輯

任建樹「武漢國民政府的成立，蛻變，消失：從迎汪復職到汪蔣合流（下）」

『黨史資料叢刊』，總第21期，1984年第4輯

3 蔣汪合作政權

① 回 想

蕭南「汪精衛與蔣介石之間」『廣州文史資料』第5輯，1962年

許金城「大世界野鷄委員」『民國野史』（沈雲龍主編『近代中國資料叢刊』

文海出版社，1973年）

田炯錦「我對汪精衛，馮玉祥的印象」『中外雜誌』第10卷第4期，1971

年1月

李俊龍「汪精衛與擴大會議」『文史資料選輯』第16輯，1961年

徐鑄成「29，從溥儀到汪精衛」『報海舊聞』上海人民出版社，1981年

「30，“擴大會議”與“非常會議”」，同上

「溥儀，鄭孝胥，汪精衛」『舊聞雜憶』，四川人民出版社，1981

年

「日汪密約的揭露」，『舊聞雜憶』續篇，四川人民出版社，1982

年

姜豪「『9・18』事變後汪蔣妥協內幕」『檔案與史學』1998年第1期，

1998年2月25日

② 資 料

亜斗「汪精衛先生政治思想的基點」『民意』第3・4号合刊，1932年2

月

以下 7 本は所収の資料集不明

「汪精衛在中央政治會議上關於中日關係的談話」（1935 年 2 月 20 日）原
載《正風》第 1 卷第 6 期，1935 年 3 月

「蔣介石給汪精衛的電報」（1935 年 3 月 2 日）《大公報》3 月 3 日

「汪精衛會見有吉時談話」（1935 年 3 月 7 日）《政治周刊》第 2 卷第 11
期，1935 年 3 月

「汪精衛與美聯社記者毛利士的談話」（1935 年 3 月 20 日）《政治周刊》
第 2 卷第 15 期，1935 年 4 月

「汪精衛與美聯社記者的談話」（1935 年 4 月 5 日）北京《晨報》1935 年 4
月 5 日，第 3 版

「蔣介石投降日本的“和平提案”」（1935 年夏）『近衛手記』（『失はれし
政治—近衛文麿公の手記』（朝日新聞社，1946 年）11～12 ページ）

「汪精衛談載撤兵整會原委」（1935 年 8 月 30 日）《時事月報》，第 3 卷第
4 期（1935 年 10 月，国内時事，117 ページ）

劉維開選編『廬山談話會會議記錄選輯』『近代中国』（対日抗戰勝利五十
週年紀念專輯），1995 年

③ 研 究

許育銘『汪兆銘與國民政府—1931 至 1936 年対日問題下的政治變動』国
史館，1999 年

朱宝琴「試析从九・一八到八・一三前後汪精衛」『南京大学學報』（哲學・
人文・社会科学），1988 年第 3 期，1988 年 7 月

馬振犢「蔣汪關係與華北政局」『民国档案』1990 年第 2 期（總第 10 期），
1990 年 5 月

陳瑞云「九一八事變後南京政府的分化與改組」『史學集刊』1993 年第 1
期（總第 50 期），1993 年 1 月

王光遠「張學良與汪精衛之爭」『縱橫』，1993 年第 3 期（總第 57 期）

蒋永敬「胡適与汪精衛对中日和戰問題之討論」『抗戰史論』東大圖書公司，台北，1995年）

王光遠「馮玉祥跟汪精衛的交往和決裂」『民国春秋』1995年第5期（總第53期）1995年9月25日

朱宝琴「西安事變前後的汪精衛」『民国档案』第4輯，1998年6月3日
陳希亮・于川・夏彪「1931年寧粵上海和會術評」，『民国档案』2001年第2期（總第64期），2001年5月

金以林「从汪，胡連手到蔣汪合作——以1931年寧粵上海和談為中心」『近代史研究』2004年第1期（總第139期），2004年1月

張殿興「盧溝橋事變前汪精衛对日態度述論」『民国档案』2004年第3期（總第141期）2004年3月

金以林「汪政權与国民党的派系糾葛——以寧粵對峙為中心的考察」『中国現代史』，2008年8期

段智峰「蔣汪合作格局下的另一種局面——以1934年顧案為中心」『民国档案』2011年第1期，2011年2月25日

劉文楠「蒋介石和汪精衛在新生活運動発勃期的分歧」『近代史研究』2011年第5期（總第185期）2011年9月

Jordan, Donald A., 'Shifts in Wang Ching-wei's Japan policy during in Kuoming-tang Factional Struggle of 1931-1932, *Asian Profile*, Vol. 12, No. 3, June 1984

Eastman, Lloyd E., 'Nationalist China during the Nanking decade, 1927-1937, L.E. Eastman, Jerome Chen, Suzanne Pepper and Lyman P. Eastman, Van Slyke, *The Nationalist Era in China, 1927-1949*, Cambridge: Cambridge University Press, 1991

So, Waicho, The Origins of the 'Wang-Chiang Cooperation' in 1932, *Modern Asian Studies*, vol. 25, no. 1, 1991, pp. 175-208.

So, Waicho, The Making of the Guomindang's Japan Policy, 1932-1937; The Role of Chiang Kai-shek and Wang Jingwei, *Modern China*, vol. 28, no. 2, April 2002, pp. 213-252.

Craft, Stephan G., 'Opponents of Appeasement: Western-educated Chinese Diplomats and Intellectuals and Sino-Japanese Relations, 1932-37', *Modern Asian Studies* vol. 35, no. 1, 2001, pp. 195-216.

4 对日抗戰

① 回 想

麥朝樞「關於蔣介石汪精衛進行降日活動的見聞」『文史資料選輯』第 22 輯，1961 年 10 月

陳銘樞「對《關於蔣介石汪精衛進行降日活動的見聞》的更正」『文史資料選輯』第 30 輯，1962 年 6 月

王稼夫「對《關於蔣介石汪精衛進行降日活動的見聞》的更正」『文史資料選輯』第 37 輯，1963 年 9 月

魏方「汪精衛出走河內前的一幕——側記蔣百里斡旋汪，蔣關係片段」『湖南文史資料選編』第 5 輯，1987 年 10 月

魏方「汪精衛對武漢焦土抗戰主張破產」『武漢文史資料』第 20 輯，1985 年第 2 輯

② 研 究

蔣永敬「汪精衛〈舉一個例〉所涉抗戰「機密」之真象」『抗戰史論』，東大圖書公司（台北），1995 年

李紅喜・周冰・劉夕海編『香港密約——日蔣和談秘檔』利文出版社，1995 年

陳木杉『從函電史料觀抗戰時期的蔣汪關係』學生書局（台灣），1995 年

羅正楷「抗日戦争時期蒋介石集团与汪精衛集团の關係」『教学与研究』

1986年第5期, 1986年9月28日

王樹蔭「試論抗戰開始後蔣汪矛盾激化分道揚鑣的原因」『民国档案』

1992年第2期(総第28期)

沈立行「抗戰初期蔣汪, 日の秘密往来」『档案与史学』1994年第1期,

1994年6月

鹿錫俊「蒋介石の中日蘇關係觀与『制俄攘日』構想」『近代史研究』

2003年第4期(総第136期), 2003年7月

孫彩霞「蒋介石对汪精衛反国投敵之処置」『近代史研究』2010年第4期,

総178期, 2010年7月

③ 汪精衛の重慶脱出に対する共産党の対応

中央档案馆編『中共中央文件選集 第11冊 1939-1941』, 中共中央党校

出版社, 1986年 ←中国人民大学所蔵

「中央關於汪精衛出走後時局指示」(1939年1月5日)

「中央關於拒絕所謂一个大党問題給周恩来的指示」(1939年1月22日)

「付一：陳紹禹等關於一个大党問題与蒋介石談判情况向中央的報告」

(1938年12月13日)

「付二：周恩来關於蒋介石談判及意見向中央的報告」(1939年1月21

日)

「付三：周恩来關於一个大党問題給蒋介石的復信」(1939年1月25日)

「中央關於我党对国民党防共限共对策的指示」(1939年1月23日)

「中共中央致国民党蔣總裁暨五中全会電」(1939年1月24日)

「中魏方共中央為国共關係問題致蒋介石電」(1939年1月25日)

IX 汪精衛暗殺未遂

- 征鴻「汪精衛被刺目擊記」『春秋』第15卷第3期，1971年（1971）
- 強劍衷編『刺汪内幕』吉林文史出版社，1986年
- 江蘇省政協文史資料研究委員會弁公室整理「一九三五年刺汪案真相」『江蘇文史資料選輯』第11輯，1983年
- 強劍衷「華克之回憶，南京晨光通訊社刺汪經過」同上
- 彭革陳「汪精衛被刺目擊記」同上
- 余立奎「我被作為刺汪要犯逮捕，引渡，判刑的前後經過情況」同上
- 付載：刺汪案判決書內容」同上
- 沈醉「汪精衛河內遭刺記」『政治暗殺實錄』中原出版社，香港，1985年
- 王方南「河內刺汪精衛見聞」『湖南文史資料選編』第5輯，1987年10月
- 賴敬業「河內刺汪精衛始末」同上
- 吳幼元「偵破汪精衛被刺案經過」『縱橫』1988年第3期（總第27期）

X 抗戰前後

1 汪精衛の論文，講演

- 「在抗戰中建國」『政論旬刊』（陽明書屋所藏）第1卷第23期，1938年9月25日
- 「民生主義的經濟制度」同上
- 「再論民生主義的經濟制度—原題『抗戰建国的力量』」『政論旬刊』第1卷第24期，1938年10月5日
- 「最近外交方針」『政論旬刊』第1卷第28期，1938年11月5日
- 「犧牲的代価」『政論旬刊』第1卷第30期，1938年11月25日

「台兇莊勝利之意義与今後国民努力之目標」『抗日大勝利—台兇莊血戰史』

（汪精衛，郭沫若，白崇禧，馮玉祥，杜仲遠等著，大時代出版社，1938年5月）

「民生主義的經濟制度」（1938年9月9日），『政論旬刊』，第1卷第23期，1938年9月25日

「汪副總裁致中央艷電重要建議」南華日報社編集部『汪精衛先生重要建議』，南華日報，1939年1月

「汪副總裁致中央常務委員会国防最高會議書」同上

「答問」南華日報社編集部『統和戰問題之討論』南華日報，1939年4月

2 回想（同時代の批判）

陳昌祖（下田貴美子訳）『陳昌祖回想録—汪精衛との日々』羊亭社，2014年
陳恭澍『河内汪案始末』台湾伝記文学出版社，1983年

姜君辰「論汪兆銘叛國案」『國民公論』第1卷第5・6号合刊，1939年1月16日

吳敬恒「対汪精衛の『挙一個例』進一解」『中央日報』1939年4月11日
千家駒「清除汪逆的思想毒素」『國民公論』第2卷第1号，1939年7月1日
錢俊瑞「汪精衛売国の理論与实践」『國民公論』第2卷第6号，1939年9月16日

夏衍「国賊汪精衛の窮余一策」『國民公論』第2卷第12号，1939年12月16日

葉楚傖「大出喪式的漢奸集团」『中央党務公報』第1卷第8期，1939年9月2日

陳誠「汪逆無恥廣播誣蔑我抗戰將士」同上

潘公展「關汪逆精衛的漢奸和平」同上

陳曙風「汪精衛投日前後側記」『広州文史資料』第2輯，1961年9月

- 龍雲「抗戰前後我的幾點回憶」『文史資料選輯』第 17 輯，1961 年 7 月
- 陶菊隱『汪政權雜錄』大地出版社，マカオ，1963 年
- 劉文煥「追隨汪精衛的一段往事」『伝記文学』（台湾）第 22 卷第 1 期，1973 年
- 方耀「關於汪精衛叛國投敵見聞点滴」『杭州文史資料』第 3 輯，1984 年 2 月
- 朱子家（金雄白）「汪精衛叛逃前後—汪偽政權黑幕之一」『文史雜誌』（双月刊）1987 年第 5 期（総第 11 期），1987 年 9 月 20 日
- 朱子家「汪精衛拼湊傀儡政權」同上，1987 年第 6 期（第 12 期），11 月 20 日
- 魏方「汪精衛出走河內前的一幕—側記蔣百里斡旋汪，蔣閔係片段」『湖南文史資料選編』第 5 輯，1987 年 10 月
- 蔣永敬「汪精衛從『和平』運動到日—「王世杰日記中的人物史事」(4)」『伝記文学』第 62 卷第 2 期，1993 年 2 月
- 文俊雄訳「端納有関汪精衛出逃情況致田伯烈的信」，『民国档案』2001 年第 4 期（総 66 期），2001 年 11 月

3 重慶脱出の原因（研究）

- 樂恕人『『和平運動』與汪派投敵（上下）』『中外雜誌』（台湾），第 10 卷第 4 ～第 5 期，1971 年
- 裴可權「汪逆精衛降敵經過記詳」『伝記文学』（台湾），第 33 卷第 6 期，1978 年
- 沈家善「汪精衛叛國投敵原因探討」『杭州大學學報』，第 12 卷第 2 期，1982 年 6 月
- 黃美真・張云「抗戰時期汪精衛集團的逃敵」『復旦學報（社會科學版）』1982 年第 6 期，1982 年 11 月 20 日
- 蔡德金「汪精衛集團叛國投敵前前後後」『近代史研究』1983 年第 2 期（総第 16 期），1983 年 4 月

瞿邈「汪精衛投敵消息是怎樣報露出來的」『年輕人』1984年第11期（總第41期），11月4日

吳德華「論買國賊汪精衛叛國逃敵的原因」『武漢大學學報（社會科學版）』，1985年第6期，1985年11月28日

柳蘊琪「汪精衛通敵買國原因初探」『貴州大學學報（社會科學版）』，1985年第3期

黃鶴逸「汪精衛秘密逃重慶」『名人傳記』1985年第6期（總第6期）

陸寶千「論汪兆銘之叛國事件一附：汪兆銘傳」，中央研究院近代史研究所編『抗戰建國史研究討論會論文集，1937～1945年（下冊）』同研究所發行，台灣，1985年12月

黃友嵐『抗日戰爭時期的「和平運動」』解放軍出版社，1988年

蔡德金「汪精衛叛逃與龍雲」『檔案與歷史』1988年第1期季刊（總第11期），1988年3月5日

梁士剛「試析汪精衛叛逃的原因」『歷史教學』1989年第6期（總306期）

孟端星「汪精衛與“重光堂會談”」『華中師範大學學報（哲社版）』1992年第2期

譚天河「河內刺汪誤中副車質疑」『學術研究』1992年第3期（總第112期），1992年6月25日

向春光「一樁李代桃僵的鋤奸案—汪精衛集團叛國與曾仲鳴之死」『民國軍政名人大刺殺案始末』甘肅人民出版社，1993年

劉華明「汪精衛叛國逃探微」『民國檔案』1993年第2期（總第32期），1993年5月

蘇宗輦「汪精衛叛國投敵原因再探」『民國檔案』1993年第3期（總第33期），1993年8月

葉崗「汪精衛到底何從重慶出走」，『抗日戰爭研究』（季刊）1994年第3期（總第13期），1994年9月

- 張慶軍・劉冰『汪精衛叛国探秘』中国档案出版社，1995年
- 劉兵「抗日戰爭時期的汪精衛与汪偽政權研究學術座談會總術」『抗日戰爭研究』1998年第4期，1998年11月
- 胡春慧「汪精衛与『低調俱樂部』」『抗日戰爭研究』1999年第1期（總第31期），1999年2月
- 蔣永敬「汪精衛的『恐共』与『投日』」，同上
- 張生・柴林「蒋介石对汪精衛投敵遲公開性与表態之原因探析」『抗日戰爭研究』2003年第2期，2003年5月
- 蔡双全・楊秀林「汪精衛叛国逃敵心理探求」『民国档案』2000年第4期（總第62），2000年11月25日
- 臧運祐「日本秘档中“汪精衛工作”考論」『民国档案』2007年第2期
- 高伐林「河内刺汪—烏龍環是陰謀」「河内刺汪事件幕後真相仍在混沌之中」
高伐林『歷史塵埃—袁世凱，汪精衛，林彪後人訪談錄』明鏡出版社，2006年
- 孫彩霞「蒋介石对汪精衛叛国党敵之处置」『近代史研究』2010年第4期（總第178期），2010年7月

4 高宗武・周仏海の役割

- Kao Tsung-wu, *Into the Tigers' Den*, Hoover Institution Archives, Folder ID: 77032-8, 19, 1944.
- Gerald Bunker, *The Peace Conspiracy: Wang Ching-wei and The China War, 1937-1941*, Cambridge, Mass: Harvard University Press, 1972
- 犬養健『揚子江は今も流れている』文藝春秋新社，1960年
- 西義顕『悲劇の証人—日華和平工作秘史』文献社，1962年
- 今井武夫『支那事變の回想』みすず書房，1964年
- 松本重治『上海時代』上中下3巻，中公新書，1982年3版（1974年初版）

土屋光芳「汪精衛と『和平運動』—高宗武の視点から」明治大学『政経論叢』

第57巻第1-2号, 1988年8月

土屋光芳「汪精衛と『政権樹立の運動』」明治大学『政経論叢』第57巻第5-

6号, 1989年3月

西園寺公一『過ぎ去りし, 昭和』アイベックプレス, 1991年

戸部良一『ピース・フィーラー—支那事変和平工作の群像』論創社, 1991

年

「高宗武對日謀和活動」『近代中国歴史人物論文集』中央研究院近代史研究所,

1993年6月

唐徳剛「從高宗武之死談到抗戰初期幾件重要史料」『伝記文学』第65巻6期,

1994年12月

越金康・張殿興「高宗武和陶希聖叛汪原因探析」『河南大学学报(社会科学

版』第34巻第2期(総第137期), 1994年3月31日

沈立行「高宗武在漢奸道路上的反復」『伝記文学』第65巻6期, 1994年6

月

唐徳剛「高宗武探路汪精衛投敵始末1-2」『伝記文学』第66巻第2-3期,

1995年2-3月

周谷「高宗武笑談当年事」『伝記文学』第66巻第4期, 1995年4月

陳木杉「第6篇 從函電史料觀汪精衛與高宗武關係梗概」『從函電史料觀汪

精衛檔案中的史事與人物新探』, 學生書局, 1997年

本刊資料室輯・邵銘煌「高宗武戰時私訪日本探知密檔—東渡日記, 會談記錄,

個人觀感」『近代中国』第129期, 1999年2月25日

王克文「評介一份有關汪精衛謀和的珍貴史料」『當代』第169期, 2001年9

月1日

陶恒生『「高陶事件」始末』成文出版社, 2001年

戸部良一「研究ノート: 汪兆銘のハノイ脱出をめぐる一関係者の回想と外

務省の記録』『外交史料館報』第15号, 2001年6月

孫武「把汪精衛引上不歸路的」『档案春秋』2005年8期, 2005年8月

陳鵬仁「有關《高宗武回憶錄》內容及註注的糾謬 1-2」『伝記文学』第91卷
第3-4期, 2007年9-10月

陶恒生訳『高宗武回憶錄』中国大百科全集出版, 2009年

5 陶希聖との関係

Chia-lin Pao Tao (鮑陶家麟), *The Role of Wang Ching-wei during the Sino Japanese War*, Ph. D. Thesis in History at Indiana University, 1971

陶希聖『潮流与点滴』伝記文学出版社, 1979年再版

陶恒生「『高陶事件』紀実：追憶六十年前先父随汪脱汪之前後(1)~(3)」『伝記文学』第72卷第4~6期, 1998年4~6月

蔡德金「陶希聖高宗武關於『日汪密約』的参与, 出走與揭發」『伝記文学』第70卷第5期, 1997年5月

唐德剛「抗戰期中『高陶事件』的一家之言—陶恒生『高陶事件』読後感」『伝記文学』第79卷第2期, 2001年8月

王中原「陶希聖宦海浮沈—汪精衛不出惡声」『中外雜誌』第66卷第2期, 1999年8月

李楊「蒋介石与《中国之命運》」『中国現代史』, 2009年5月

Arif Dirlik (阿, 德里克)「陶希聖—变革的社会限制」『中国現代史』, 2011年11月

XI 汪精衛政權

1 人名録, 基本文献

佚名編著『汪偽政府所属各機關部隊学校团体重要人員名録』学海出版社, 台

- 北県深坑郷，1998年，
三輪宗弘編集・解題『汪精衛政権人名録—OSS（米諜報機関）1944作成』
クロスカルチャー出版，2019年
蔡德金・李慧賢「關於汪偽政權問題學術討論會綜述」『歴史研究』1986年第
五期（総189期），1986年10月15日
蔡德金・李慧賢『汪精衛偽国民政府紀事』中国社会科学出版社，1982年
蔡德金『歴史的怪胎—汪精衛国民政府』広西師範大学，1993年
費正・李作民・張家驥『抗戰時期的偽政權』，河南人民出版社，1993年
羅久蓉「歴史情境與抗戰時期「漢奸」的形成—以1941年鄭州維持会為主要
案例的探討」中央研究院『近代史研究所集刊』第24期下冊，台北市，
1995年
蔡德金「關於抗戰時期汪精衛与汪偽政權的幾個問題之我見」『抗日戦争研究
（季刊）』1999年第1期（総31期），1999年2月
許育銘「日本有関汪精衛及汪偽政權之」，同上
王克文『汪精衛・国民党・南京政權』国史館，台北2001年
余子道・曹振威・石源華・張云『汪偽政權全史』上下2卷，上海人民出版社，
2006年（2020年8月上中下三卷再版）
歩平・他「筆談『抗日戦争与淪陷区研究』」『抗日戦争研究』2010年第1期
（総第75期），2010年2月
聞少華『汪偽政權史話』社会科学文献出版社，2011年
張同樂・馬俊亜・曹大臣・楊維真『中華民國專題史第12卷，抗戰時期的淪
陷区偽政權』南京大学出版社，2015年
スタンレイ・ホフマン（天野恒雄訳）「対独協力の問題」『革命か改革か—フ
ランス現代史1』白水社，1977年
渡辺和行『ナチ占領下のフランス』講談社，1994年
劉傑「汪兆銘政權の樹立と日本の対中政策構想」『早稲田人文自然科学』第

50 号, 1996 年 3 月

小林英夫『日中戦争と汪兆銘』吉川弘文館, 2003 年

ロバートソン・パクストン（渡辺和行・剣持久木訳）『ヴィシー時代のフランス—対独協力と国民革命 1940-1944』柏書房, 2004 年

古厩忠夫「汪精衛政権はカイライではなかったか」『日中戦争と上海, そして私—古厩忠夫中国近現代政治史論集』研文出版, 2004 年

古厩忠夫「『漢奸』の諸相—汪精衛政権をめぐる」, 同上

小林英夫・林道生『日中戦争史論—汪精衛政権と中国占領地』御茶ノ水書房, 2005 年

柴田哲雄『協力・抵抗・沈黙—汪精衛南京政府のイデオロギーに対する比較史的アプローチ』成文堂, 2009 年

土屋光芳「『汪兆銘政権』論—比較コラボレーションによる考察」人間の科学新社, 2011 年

堀井浩一郎『汪兆銘政権と新国民運動—動員される民衆』創土社, 2011 年

Barret, David P. and Larry N. Shyu, eds., *Chinese Collaboration: The Limits of Accommodation with Japan, 1932-1945*, Stanford, California: Stanford University Press, 2001.

Timothy Brook, *Collaboration: Japanese Agents and Local Elites in Wartime China*, Cambridge, Mass. and London, England: Harvard University Press 2005.

Martin Dean, 'Where did all the Collaborators Go?', *Slavic Review*, Vol. 64, No. 4, Winter 2005.

Jeffery W. Jones, "'Every Family has its Freak': Perceptions of Collaboration in Occupied Soviet Russia, 1943-1948', *Slavic Review*, Vol. 64, No. 4, Winter 2005.

John Connelly, 'Why the Poles Collaborated So Little — And Why that

is no Reason for Nationalist Hubris', *Slavic Review*, Vol. 64, No. 4, Winter 2005.

Klaus-Peter Friedrich, 'Collaboration in a "Land without a Quisling": Patterns of Cooperation with the Nazi German Occupation Regime in Poland during World War II', *Slavic Review*, Vol. 64, No. 4, Winter 2005.

Tanja Penter, 'Collaboration on Trial: New Source Material on Soviet postwar Trials against Collaborators', *Slavic Review*, Vol. 64, No. 4, Winter 2005.

Jeremy E. Taylor, 'Cartoons and Collaboration in Wartime China; The Mobilization of Chinese Cartoonists under Japanese Occupation', *Modern China*, Vol. 4, No. 4, 2015.

2 各档案館史料，回想

中国国民党中央委员会党史委员会編『中華民国重要史料初編一対日抗戰時期，第6編傀儡組織』全4冊，編者印，1981年

南京大学馬列主義教研室《汪精衛問題研究班》『汪精衛集团壳国投敵批判資料選編』，南京大学学报編輯部，1981年5月

黄美真・張云編『汪偽政權資料選編 汪精衛集团投敵』上海人民出版社，1984年

黄美真・張云編『汪偽政權資料選編 汪精衛国民政府成立』上海人民出版社，1984年

中国第二歴史档案館編『汪偽国民政府公報』総目8冊，江蘇出版社，1991年

中国第二歴史档案館編『汪偽政府行政院會議録』全31冊，档案出版社，1992年

- 中国第二歷史档案館編『汪精衛與汪偽政府』上下2卷，商務印書館（香港），1994年
- 中国第二歷史档案館編『中華民國史档案資料匯編第五輯第二編付録』上下2冊，鳳凰出版社，1997年第1版，2010年第2版
- 中国第二歷史档案館編『汪偽中央政治委員會且最高国防會議會議録』全25冊，江西師範大学出版社，2002年
- David. P. Barrett, 'English language archival materials on the Wang Jingwei regime'『民国研究』第二輯，1995年7月
- 巴雷特（徐云根・徐有威訳）「關於汪偽政權的英文档案資料」『档案與歷史』1995年第二期，1995年
- 「德国承認汪偽国民政府史料一組」『民国档案』2004年第3期，2000年8月
- 巴雷特（单富粮訳）「英国外交档案有関汪精衛『和平運動』及汪政權的部分歷史档案文件」『民国档案』2000年第4期（総62期），2000年11月25日
- 蔡德金「汪精衛偽国民政府始末」『江蘇文史資料』第12卷，1983年6月
- 蔡德金「汪精衛偽国民政府始末」『江蘇文史資料』第29卷『汪偽政權内幕』1989年12月
- 金雄白『汪政權の開場与收場』李敖出版社，1988年
- 東洋文庫整理『中華民國駐日大使館档案（1943-1944）』（曾支農「汪兆銘政權駐日大使館档案問世」『東方』212号，1998年10月）
- 黃美真『偽廷幽影録—対汪偽政權的回憶記実』中国文史出版社，1991年
- 中央档案館・中国第二歷史档案館・吉林省社会科学院合編『汪偽政權』中華書局，2003年
- 文斐編『我知道的汪偽政權』，中国文史出版社，2005年

3 領袖たち

黄美真編『汪偽十漢奸』上海人民出版社，1986年

雪舟子「汪偽政權十大漢奸的下場」『炎黄春秋』総19期，1993年10月

化夷『党日十大奸大結局』文経閣，2006年

「曾仲鳴」『中華民国史資料叢稿』訳稿「民国名人伝記辞典」第11冊1981年7月

顧彦和「我所知道顧孟余」『文史資料選編』1987年12月

高漢「汪偽安徽省長林柏生企図搞蔣汪合流」『安徽文史資料』第21輯，1984年

田守成「褚民誼和汪偽組織」『文史集萃』第二輯，1983年12月

孫云年「漢奸褚民誼的下場」『縱横』1992年第I期（総49期）

陳存仁遺作「褚民誼生也糊塗死也糊塗」『伝記文学』第59期第3期，1995年3月

陳木杉『從函電史料觀抗戰時期的蔣汪關係』，学生書局，1995年

陳木杉『從函電史料觀抗戰時期汪精衛集团治粵概況』，学生書局，1996年

沈醉・徐肇明等『漢奸内幕』中国文史出版社，2010年

蔡登山編『汪精衛集团』独立作家，台北2014年

① 陳璧君

陸茂清「陳璧君一被囚終身」『名人伝記』1992年6期（総72）

陳璧君「與日本謀和平我是現在僅存的罪魁禍首」『伝記文学』第65巻第2期，1995年2月

文斐編『我所知道的漢奸汪精衛和陳璧君』中国文史出版社，2005年

② 周仏海

蔡德金編注『周仏海日記全編』上下2編，中国文聯出版社，2003年

松井松次訳『我が闘争』東亜公論社，1940年

『陳公博・周仏海回憶錄合編』春秋出版社，1967年

王安之「軍統局“策反”漢奸周仏海の経過」『文史資料選輯』第64輯，
1979年7月

徐肇明「漢奸周仏海勾結軍統及下場」『文史資料選輯』第64輯，1979
年7月

鐘玉如「周仏海の青少年時期」『湖南文史資料』第22期，1986年6月

周幼海（蔡德金編・劉潔訳）『わが父周仏海：汪兆銘政權秘話』『中央公
論』1990年7月号

周之友「周仏海浮沈録」『縦横』1991年5～7期（総41～43）

劉其奎「周仏海終日於驚惶の晩年」『民国春秋』第92卷第4期（総34），
1992年7月

文斐編『我所知道的漢奸周佛海』中国文史出版社，2005年

聞少華『周仏海評伝』武汉大学出版社，1990年

蔡德金『朝秦暮楚の周仏海』河南人民出版社，1992年

Han-sheng Lin, 'Chou Fo-hai: The Diplomacy of Survival', in eds.
Richard Dean Burns and Edward M. Bennet, *Diplomats in Crisis:
US-Chinese-Relations, 1919-1941*, Santa Barbara, CA: ABC Clio,
1974

蘇徳昌「中国人の日本観一周仏海」『奈良大学紀要』第32号，平成16
年3月

③ 陳公博

汪瑞燭・李鐸・趙令揚編注『苦笑録—陳公博回憶一九二五—一九三六』
香港大学亞洲研究中心，1979年

松本重治監修・岡田酉次訳『中国国民党秘史』（講談社，1980年）同上
抄訳

『寒風集』地方行政社，上海，1944年

- 「陳公博呈蔣主席待命自首函（1945年8月25日）」中華民國重要史料初編編集委員會編『中華民國重要史料初編—對日抗戰時期 第六編 傀儡組織（四）』，中國國民黨中央委員會黨史委員會，1981年
- 「陳公博的答弁書」，同上
- 「陳公博的自白書」，同上
- 陳公博「思想方法与三民主義」『黃埔季刊』第1卷第1期，1939年1月1日（廣東省立中山圖書館・廣州市社會科學院・中山大學圖書館編『黃埔軍校史料匯編』第3期第50冊，廣州教育出版社，2014年）
- 陳公博「中日永久和平の途（上下）」『大陸新報』1940年
- 賈興權（提供并整理）「陳公博獄中日記」『民國檔案』1991年4期（總第26期），1991年11月
- 韶華「《陳公博獄中日記》質疑」『近代史資料』總第81号，1992年
- 小川哲男『日中終戰史話—南京國民政府主席陳公博の日本亡命』原書房，1985年
- 陳伯衡「我所知道的陳公博」『文史集萃』第6輯，1985年3月（原載『廣州文史資料』第4輯）
- 「記褚民誼陳公博之死」許肇基・許金城共編『民國野史』雲南人民出版社，2003年
- 朱弘「五年一黨漢奸夢」『書林』1985年第3期（總第34期），1985年3月
- 蔣光佩「陳公博出逃及伏法經過」『上海文史資料選輯』第52輯，1985年12月
- 趙天一「公審汪偽巨奸陳公博親歷記」『檔案與史學』，1994年第4期
- 文斐編『我所知道的漢奸陳公博』中國文史出版社，2005年
- 聞少華「陳公博」中國社會科學院近代史研究所中華民國史研究室編『中華民國史資料叢人物傳記第16輯』，1988年第3期

王克文「陳公博為什麼追隨汪精衛投敵—民國時期政治忠誠觀念的個案研究」『抗日戰爭研究』1992年第2期，1992年5月

蔡德金「也談陳公博為何追隨汪精衛投敵—與王克文先生商榷」『抗日戰爭研究』1993年第2期，1993年5月

蔡德金『汪偽2號人物陳公博』河南人民出版社，1993年

聞少華『陳公博傳』東方出版社，1994年

石源華「陳公博の生涯—その思想における発展と転換」『中国研究月報』532号，1992年6月

石源華『陳公博這個人』上海人民出版社，1997年

④ 湯良禮

Tang Leang-li, 'Reorientation of National Policy', *Peoples Tribune*, vol. 27 (New Series), no. 1-6, Aug-Oct, 28, 1939, pp. 1-16.

Tang Leang-li, 'Mr. Wang Ching-wei: Trustees of the Revolutionary Heritage,' *Peoples Tribune*, vol. 27 (New series), Dec. 28, 1939, pp. 201-210.

山田辰雄「資料—湯良禮訪問記」慶応大学『法学研究』第45巻第10，1972年，2012年3月

土屋光芳「湯良禮はなぜ汪精衛政権側に付いたか？」明治大学『政経論叢』第80巻3・4号

4 黨組織と内部対立

何国涛「汪偽巨奸派系之爭」『文史資料選輯』第39輯，1963年

郭秀峰「汪偽政權的沒落與偽官的下場」『安徽文史資料選輯』第10輯

許卜五「汪偽国民党的組織情況」『上海文史資料』第18輯，1964年7月

葉純志口述・何国净整理「杭州汪偽特工組織内幕」『杭州文史資料』第6輯
1985年

- 胡澤吾「汪偽内幕」『上海文史資料』第57輯，1987年2月
- 章克「我所知道的汪偽政權内幕情況」『山東文史資料』第25輯 1988年12月
- 司徒重石「汪精衛偽政權軼聞摭疽譚」『春秋』第9卷第3期
- 周紅・楊宗仁「从汪精衛親筆信看汪偽内部鬭爭」『民国春秋』1990年第2期
(総第20期)，1990年3月25日
- 堀井浩一郎「日中戦争期，汪精衛国民党の成立」『中国21』Vol.31. 2009年
5月

5 政府・軍・特工・経済

- 王克文「戦争与和平一試論汪政權的歷史地位」『国史館館刊』復刊22期，
1997年6月
- 王克文「汪政權党政軍結構初探」王克文『汪精衛・国民党・南京政權』国史
館，台北2001年所収
- 張生「論汪偽对国民党符号的爭奪」『中国現代史』，2005年11月

① 政 府

- 復旦大学歴史系中国現代史研究室編『汪精衛漢奸政權的興亡』復旦大学
出版社，1987年
- 小笠原強「汪精衛政權行政院からみた政權の実態について—機構・人事
面から」『専修史学』第38巻，2005年3月
- 陳紅民・陳書梅「汪偽政權立法院の初步分析」『中国21』Vol.31. 2009
年5月
- 潘敏『江蘇日偽基層政權研究』上海人民出版社，2006年
- 江沛『日偽“治安強化運動”研究』南開大学出版社，2006年
- 張玉成『汪偽時期日偽奴化教育研究』山東人民出版社，2007年
- 曹必宏・夏軍・沈嵐『汪偽統治下奴化教育研究』社会科学文献出版社，
2015年

② 軍

唐生明「我奉蒋介石命汪偽政權的概述」『文史資料選輯』第40輯，1963年11月

黃広源「孫良誠投敵及下場」『文史資料・軍政人物編・六画』中国文史資料出版社，1996年

王翔九「我所知道的張嵐峰」『河南文史資料』第3輯，1980年3月

張耀宸「湯恩伯勾結敵偽的一个例証」『江蘇文史資料』第3輯，1964年1月（1981年7月）

徐向宸・楊衣蔚・張耀宸「汪偽軍事組織和偽軍的變遷」『江蘇文史資料』第5輯，1980年11月（第1次），1982年11月（第2次）

張執一「馳騁襄南・威振武漢」『武漢文史資料』第6輯，1982年3月

朱紹丈「漢奸熊劍東和黃衛軍」『武漢文史資料』第6輯，1982年3月

周金山「日偽武漢軍警訓練親歷記」『武漢文史資料』第7輯，1982年5月

左史「汪偽軍事機構及偽軍概況」『江蘇文史資料』第12輯，1983年6月

胡幼植・伝大興「汪偽政權“建軍”拾零」『文史資料選輯』第99輯，1984年11月

曹玄慶「汪精衛建軍記」『文史資料選輯』第99輯，1984年11月

牟中珩「我所接触的沈鴻烈」『山東文史資料』第7輯，1964年7輯，1985年

胡澤吾「汪偽内幕」『上海文史資料』第57輯，1987年2月

馬幼垣「汪偽海軍艦隻初探」檢討会準備委員会編輯『記念七七抗戰六十週年學術檢討会論文集』，国史館，台北1998年，665-727

武漢市档案館江漢大学城市研究所編『淪陷時期—武漢的政治与軍事』武漢出版社，2007年

郭金炎『黎明前的海嘯—汪偽海軍和国民党海軍起義紀實』解放軍出版社,
2009年

馬場毅「山東省の傀儡軍」『社会科学討究』第39巻第3号, 1994年3
月

③ 特 工

蔡德金編『七十六号—汪偽特工總部口述秘史』團結出版社, 2007年
周山『汪偽特工—李士群』中国社会科学出版社, 1996年

④ 經濟・金融

岡田西次『日中戦争裏方記』東洋經濟新報社, 1974年,
青木一男『わが九十年の生涯を顧みて』講談社, 1981年
關鍵詞「試析汪偽戰時經濟体制」『華中師範大學學報』（哲社版）1992
年第2期
邵銘煌「戰時渝方与汪偽の地下闘争—吳開先案為例」『抗日戦争研究』
1999年第1期（総第31期）, 1999年2月
黄美真編『日偽對華中淪陷区經濟的略奪与統制』社会科学文献出版社,
2005年
潘健『汪偽政權財政研究』社会科学文献出版社, 2009年
朱佩禧『寄生与共生—汪偽中央儲備銀行研究』同济大学出版社, 2012
年

6 清郷工作

① 資 料

『清郷日報（1941年7-12月）』（マイクロフィルム。9月20日, 10月22・
24日欠落）
『清郷新報（1942年6-12月）』（マイクロフィルム）
三好章編著『「清郷日報」記事目録』中国書店, 2005年

- 張大荒「汪偽安徽『清鄉』的罪行錄」『安徽文史資料選輯』第 10 期，
1965 年
- 余子道・劉其奎・曹振威編『汪精衛国民政府「清鄉」運動』上海人民出
版社，1985 年
- 中央檔案館・中国第二歷史檔案館・吉林省社会科学院合編『日汪的清鄉』，
中華書局，1995 年
- 馬淵逸雄「築土建設・清鄉工作」『大亜細亜主義』第 100 号，1941 年 8
月
- 「国民政府の清鄉工作」『外事警察報』第 229 号，1941 年 8・9 月
- 「南京国民政府の清鄉工作進捗状況」『外事月報』1941 年 9 月号
- 「清鄉工作に対する新四軍の策動」『情報』第 50 号，1941 年 9 月 15 日
- 「新中国の郷土は清く健やかに」『写真週報』第 196 号，1941 年 11 月
26 日
- 石濱知行『清鄉地区』中央公論社，1943 年
- 小山五郎『国民政府の清鄉工作』東亜研究会，1942 年
- 汪曼雲原作「汪精衛自兼委員長的『清鄉』」（上中下）『伝記文学』第 63
卷第 5, 6 期，第 64 卷第 1 期，1993 年 11, 12 月，1994 年 1 月

② 研 究

- 余子道「汪精衛国民政府「清鄉」運動」，復旦大学歴史系中国現代史研
究室編『汪精衛漢奸政權の興亡』復旦大学出版社，1987 年
- 呉雪晴『日偽の「清鄉」及其失敗』，江蘇省史学会編『抗日戦争史事探
索』上海社会科学院出版社，1988 年
- 計錫麟「汪精衛視察無錫」『縱横』1991 年 1 月（総 43）
- 周蔚昌「蘇中抗日根拠的反『掃蕩』与反「清鄉」闘争一紀年栗裕將軍逝
世 10 周年」『軍事歴史』1994 年第 4 期（総第 67）
- 夏軍「汪偽時期的清鄉教育」『民国研究』，2006 年秋季号（総第 10 輯），

2006年12月30日

古厩忠夫「日本軍占領地域の「清郷」工作与抗戦」『日中戦争と上海，
そして私—古厩忠夫中国近現代政治史論集』，研文出版，2004年
三好章「汪兆銘の『清郷』視察」『中国21』Vol.31，2009年5月，231-
254

7 対日関係・外交

伊藤隆・廣橋真光・片島紀男編『東條内閣総理大臣機密記録—東條英機大將
言行録』東京大学出版会，1990年

「汪精衛と新政府への認識」『週報』第179号，1940年3月20日

「支那新中央政府の誕生—日支関係はどうなるか」『写真週報』第107号，
1940年3月30日

「新中央政府ここに成立す」『週報』第181号，1940年4月3日

「国民政府強化の諸条件とその施策」『東亜』第15巻第9号，1942年9月1
日

「日華同盟条約調印さる」『写真週報』第298号，1943年11月17日

大淵仁右衛門「日華基本条約に意義」『支那』第33巻11月号

汪大義『汪日密約』嶺南出版社，出版年不詳

張生・潘敏・周宗根・李峻・李先明『日偽関係研究—以華東地区為中心』南
京出版社，2003年

鮑威爾（John B. Powell）「日本人統治下の上海」『伝記文学』第21巻第1
期

鮑威爾「珍珠港事変前の上海新聞界」『伝記文学』第22巻第2期

邪建裕・薛明揚・徐躍譯訳『鮑威爾対華回憶録』知識出版社，1994年

邵銘煌「汪精衛政權参加『大東亜戦争』之経緯—從同甘共苦到共生死」中華
民国史專題第一屆討論会，民81年8月6日至8日

劉松茂「論汪精衛與吳佩孚對日誘降的不同態度及其原因」『湘潭大學學報』

（社會科學版）1994 年第 1 期，1994 年 1 月

石源華「論日本對華新政策下的日汪關係」『歷史研究』1996 年第 2 期，1996

年 4 月 15 日

邵銘煌「汪精衛政權中日本顧問之聘用」『近代中國』第 119 期，1997 年 6 月

25 日

張振瀟「日本與汪精衛」『抗日戰爭研究』1999 年第 1 期（總第 31 期），1999

年 2 月

石源華「汪偽政府『收回』租界及『撤廢』治外法權述論」『中國現代史』2005

年第 2 期

大畑篤四郎「汪兆銘評價の一側面—中國諸利益の回収を中心に」『東アジア

近代史研究』第 5 号，2002 年 3 月

李盈慧（光田剛訳）「汪精衛政權と重慶国民党によるタイ華教組織争奪戦」

松浦正孝編『アジア主義は何を語るのか—記憶・権力・価値』ミネルヴァ
書房，2013 年

8 大亞洲主義，東亞連盟

陳伯華「大亞洲主義與東亞協同體及建設東重新秩序之連系性」『國府還都一

周年紀念特刊』中國國民黨京滬滬抗角鐵路特別黨部 職工會，民 30 年 3

月 30 日

陳伯華「三民主義新論」，一第 5 卷第 32 期，民 32 年 3 月 25 日

李德明「汪精衛的偽『三民主義』」，重慶師院學報（哲學社會科），1988 年 3

期（總第 35），1988 年 9 月

裴京漢「汪偽政權與『大亞洲主義』」『民國檔案』，1998 年第 3 期

史桂芳「評東亞連盟論的內容與實質」『抗日戰爭研究』1999 年第 1 期（總第

31 期），1999 年 2 月

- 伊藤昭雄「『大アジア主義』と『三民主義』—汪精衛傀儡政権下の諸問題について」『横浜市立大学論叢』第40巻人文科学系列第1号, 1990年
- 柴田哲雄「汪精衛南京政府下の東亞連盟運動の思想的起源—汪精衛の外交観・政治体制観において」愛知学院大学『教養部紀要』第52巻第1号, 2004年
- 蘇維初（土屋光芳訳）「汪精衛と大アジア主義」松浦正孝編著『昭和・アジア主義の実像—帝国日本と台湾・「南洋」・「南支那」』ミネルヴァ書房, 2007年
- 土屋光芳「汪精衛政権の『大亞洲主義』とその実現構想—周化人の『亜細亜連盟（汎亜連合）』」松浦正孝編『アジア主義は何を語るのか—記憶・権力・価値』ミネルヴァ書房, 2013年

9 漢奸裁判

- 『参考消息：1944年6月-1945年11月』哈佛燕京図書館文献叢刊第3種, 広西師範大学出版社, 2006年
- 益井康一『漢奸裁判史 1946-1948』みすず書房, 1977年
- 劉傑『漢奸裁判—対日協力者を襲った運命』中公新書, 2000年
- 南京市档案馆編『審訊汪偽漢奸筆録』上下2巻, 江蘇書籍出版社, 1992年
- 魏白編『南京大審判揭密』国際文化出版, 1995年
- 張勁編『審訊汪偽十漢奸』江蘇古籍出版社, 1998年
- 王曉華『見証漢奸大審判』南京出版社, 2005年
- 王克文（主演）・林秋敏（整理記録）「戦争与和平—試論汪政権の歴史地位」『国史館館刊』復刊第22期, 1997年6月
- 曾業英「簡評『戦争与和平—試論汪政権の歴史地位』」『抗日戦争研究』1999年第1期（総第31期）, 1999年2月
- 張生「論汪偽国民党政治符合の争奪」『中国現代史』, 2005年11月

土屋光芳「汪精衛政権の対日合作と他の合作政権と比較考察」明治大学『政
経論叢』第73巻第5・6号，2006年3月

XII 汪精衛の死因をめぐって

- 「汪主席崩逝專輯」『政治月刊』第8巻第6期，1944年12月10日
- 邱維達「蒋介石秘密炸汪墳」『文史資料選輯』，第18輯，1961年8月
- 李直峰「抗戰期間の対日無線電偵破工作」『抗日風雲録』下巻，中国人民政
治協商會議上海市委員会文史資料工作委員会編，上海人民出版社，1985
年
- 胡英甫「汪精衛之死」『文史通迅』，1983年第1期（総第13期）
- 蔡德金「汪精衛死亡の真相」『歴史評論』458号，1988年6月号
- 聞少華「汪精衛は日本人害死的嗎？」『江漢論壇』1990年第10期（総第122
期），1990年10月15日
- 遠秋「汪精衛做寿生悲」『南京史誌』1991年第6期（総第50期）
- 李影・子江「汪精衛死因之謎」『炎黄春秋』1993年第6期（総第15期）
- 李一匡「汪精衛之死」『伝記文学』第75巻第6期（総451），1999年12月
- 向山寛夫「汪兆銘の墓」『向山寛夫エッセイ集』中央経済研究所，1993年
- 「死からきょう49年一付き添った専属軍医の『学位論文』が名大に」『朝日
新聞』1993年11月10日
- 「汪兆銘が消えた①～⑩」『朝日新聞』1994年3月3日～17日
- 土屋光芳「汪兆銘遺族，名古屋帝大病院に梅を」『明大組合ニュース』第243
号，2003年10月17日
- 高伐林「汪精衛之死」『歴史塵埃—袁世凱，汪精衛，林彪後人訪談録』明鏡
出版社，2006年
- 高伐林「汪精衛政治遺囑真偽懸案」同上

聞少華「汪精衛是死于上海嗎？—与呉越先生商榷」『抗日戦争研究』2010年
第2期，総6期，2010年5月26日

付記：本研究目録は JSPS 科研費 JP19H01406 の助成を受けた。